

—— 東京近郊の子どもを持つ主婦 400 人に聞く ——

『世代をつなぐ食』その実態と意識

2004 年 2 月

農林中央金庫

目次

調査企画	1
調査結果の要約	3
調査結果の内容	5

子どものいる主婦 400 人に聞く 食生活の実態

1. 日頃、食品の買い物をする 1 週間の平均的な回数 7

『a)野菜』、『b)魚介類』、『c)精肉』では“週に2回以上”が8割強を占めているが、『加工食品』では約半数とかなり低め。『e)惣菜・テイクアウト』は3割程度にまで下がり、「ほとんど買わない」(34.0%)や「1回」(33.3%)の人に三分

2. 生鮮食品を選ぶ時、特に気をつけている点 9

「賞味期限・消費期限」(74.0%)、「価格」(71.8%)、そして「見た目の新鮮さ」(57.3%)などに気をつけている

3. 加工食品を選ぶ時、特に気をつけている点 10

「賞味期限・消費期限」(86.0%)への注目度が断然高い。次いで「価格」(62.8%)

4. 普段、食事の支度にかかる時間 11

『a)朝食』の支度にかかる時間は、「10～20分未満」(38.8%)が最も多い。平均時間は「20.7分」と、朝食の支度にはあまり時間をかけていない

『b)夕食』の支度にかかる時間は、「60～70分未満」(45.8%)が最も多く、平均時間も「56.1分」と『a)朝食』の3倍近い

5. 家庭で、家族全員が揃って食事をする回数は週何回か 13

『朝食』は、「ほとんどない」が3割強(31.5%)を占め、平均「2.2回」

年代が高いほど一緒に食事をする回数が減る

『夕食』は、「2～3回」(37.5%)が最も多く、平均回数は「3.3回」と、『朝食』より1回強多い

6. 家庭で、ふだん家族全員が揃って食事を食べる時間 15

『朝食』は「20～30分未満」(28.8%)、「10～20分未満」(28.5%)、「30～40分未満」(24.0%)の20～30分が多く、平均「20.9分」

『夕食』は、「60～70分未満」(28.8%)が最も多く、平均時間は「45.7分」と、『朝食』の2倍以上の時間をかけている

7. 料理・食品は、購入することが多いか、自分で作ることが多いか 17

“作ること”より「購入することが多い」料理・食品として『c)ドレッシング』(79.3%)、『a)だし』(71.0%)、『b)漬物』(54.8%)が上位を占める

ほとんどの料理・食品は「作ることが多い」が中心。ただし『g)ぎょうざ』(『f)とんかつ』、『i)ポテトサラダ』、『k)おにぎり』などは、「半々くらい」が20%前後

8. 「我が家の味」といえばどんな料理か 19

「野菜の煮物」(43件)、「餃子」(42件)、「肉じゃが」(34件)がベスト3

種類別にみると、圧倒的に「和食」(257件)が多く、「煮物」「汁物」「ご飯もの」が中心。以下「洋食」(92件)、「中華」(64件)

9. 家庭で、食材を購入して使い切れなかったり、料理を食べ残したりして、食品を捨てる量 21

“やや+とても少ない”が「53.3%」と半数以上を占め、“やや+とても多い”(12.5%)は約1割にとどまる

10. 食品を捨てることについて、どう感じるか 22

「もったいない」(90.3%)をはじめ、「もっと計画的に購入したい」(57.3%)、「作った人に申し訳ない」(29.0%)など、捨てることに後ろめたさを感じている人がほとんど

11. 家族揃って外食する頻度 23

「月に1回くらい」(30.0%)が最も多く、平均は月に「1.1回」

子どもが小さい家庭の方が、「外食」する回数が多い

12. 家庭の食費は、一カ月に大体いくらくらいか 24

家庭の一カ月の食費は、「6～8万円未満」(31.8%)、「4～6万円未満」(27.3%)の回答で約6割を占める。平均金額は「6万8,840円」

「野菜など食材を自家生産」している家庭は「7.3%」で、その“自家生産食品”を市価に換算した一カ月の平均金額は「5,138円」

子どものいる主婦 400人に聞く 食に関する意識

1. 毎日の食生活で特に重視していること 26

「栄養」(72.8%)が最も多く、家族の健康が最優先。続く「家族の好み」(62.5%)、「おいしさ」(56.8%)がトップ3

2. 食について、関心がある・日頃から知りたいと思う・情報を集めている事柄 27

「献立・レシピ」(77.5%)が突出して高く、献立を考える苦労がうかがえる。以下、「からだに良い食べ物」(56.3%)、「調理の技術・コツ」(51.3%)、「栄養」(44.8%)などの情報にアンテナを張る

3. 「食の安全」について、どの程度関心を持っているか 28

「とても関心がある」は16.3%。「まあ関心がある」(72.5%)を合わせると、ほぼ9割が“関心がある”

関心のある具体的内容は、「食品添加物」(85.9%)が最も多く、以下、「BSE(狂牛病)」(62.5%)、「遺伝子組換え食品」(53.8%)など

4 . 「安全な食」のための対応や、生活習慣として、実行していること 30

「なるべく手作りする」(61.3%)、「食品の表示をよく読む」(57.3%)、「原産地を確認する」(47.8%)、「気になる添加物を使っている食品は利用しない」(40.5%)が4割を超える

5 . 出来合いの惣菜について、どう考えているか 31

出来合いの惣菜は、「すぐ食べられて便利」(73.8%)、「少量欲しい時によい」(55.3%)、「自分では作り難い料理が食べられる」(45.3%)といった肯定的な意見が主になっているが、「価格が高い」(41.0%)、「味が濃い」(29.3%)との否定的な意見も少なくない

6 . 自分はグルメ(美食家)だと思うか 32

「思う」人は3割弱(29.0%)にとどまり、「思わない」(71.0%)人の方がはるかに多い

グルメだと「思う」理由は、圧倒的に「おいしいものが好きだから」(92.2%)

グルメだと「思わない」理由は、「有名店で食べることが少ないから」(54.9%)、「何を食べてもおいしいから」(41.9%)、「まわりの人のほうがグルメに見えるので」(30.3%)など

7 . 自分自身や家庭の食生活について望んでいること、実現していること 35

『望んでいること』は、「料理のレパートリーが多い」(79.3%)、「料理が上手」(75.8%)、「なるべく手作りする」(70.5%)がベスト3で、「料理の技術向上」への希望が特に強い

『実現していること』は、全般に『望んでいること』に比べ低率だが、「なるべく手作りする」(74.3%)、「夫や子どもの弁当を作る」(43.8%)、「食事の支度にあまり時間をかけない」(42.0%)がベスト3

子どものいる主婦 400人に聞く 食育に関する意識と実態

1 . これまで料理や食についての知識を、主に誰から教わったり、何かからとり入れてきたか . 37

やはり、「母親」(75.0%)が1番

2 . 季節や行事の時に、必ず食べたくなる地元の作物・郷土料理・行事食 38

「雑煮」(40件)、「ちらし寿司」(31件)、「おせち料理」(20件)がベスト3

大分類で見ると、「ご飯もの(栗ご飯、五目ご飯など)」(118件)、「正月料理(おせち、もち、雑煮など)」(88件)、「魚料理(秋刀魚、鮎)」(64件)などの順

3 . 郷土料理・行事食を子どもの世代に伝えるか 40

“伝えた+伝える”(87.5%)と回答した人が大半だが、詳細にみると、「できれば伝える」(43.0%)、「子どもが希望すれば伝える」(28.8%)とあまり強い意気込みではない

4 . 子育てをする中で、食べ物や食事について、言い聞かせたり、守らせようとしたこと 41

「いただきます、ごちそうさま、と言う」(73.3%)、「食べ物を粗末にしない」(69.5%)、「好き嫌いをしない」(67.0%)、「食卓に肘をつかない」(58.8%)など、食事に関するマナーや、健康によい食生活を教えていこうとしている

5 . 子育てのなかで、食べ物や食事について、参加・実行させるようにしてきたこと 42

「食事後の食器を運ぶ」(75.0%)、「食卓の準備」(65.8%)、「食事の支度」(52.5%)など、簡単な“食事の用意と食後の片づけ”に参加・実行させている家庭が多い

「食事の支度」の具体的な内容は、「お米をとぐ」(74.8%)、「野菜などの皮をむく、切る」(71.4%)、「野菜などを洗う」(56.7%)、「料理を作る」(56.2%)など

『第一子が一番最初に作った料理名』の第1位は、「卵料理」(42件)

「食事の支度」に第一子を参加させるようになった年齢は、「4～6歳」(41.9%)、「3歳以下」(10.0%)の“小学校以前”が過半数

子どものいる主婦 400人に聞く 日本の農業に関する意識と実態

1 . 近所に、農地があるか 46

“近所に、農地がある”という人は、6割強(61.3%)

農地が近所にあることに対しては、「季節感がある」(70.6%)、「緑が豊かでよい」(55.1%)、「採れたての作物が手に入るのよい」(41.2%)、「農作物のことを子どもに教えられるのよい」(33.5%)など、プラス評価をする人がほとんど

2 . 現在、日本の食糧自給率はどれくらいだと思うか 48

「30%」(23.8%)「40%」(22.5%)と、半数弱がほぼ“正解”

3 . 日本は、どの程度食糧を自給すべきだと思うか 49

「3分の2くらい」(55.3%)が半数を超え、「半分くらい」(24.8%)が続く

4 . これからの農畜水産物に対する要望 50

「安全な」(94.0%)農畜水産物への要望が突出しており、次いで「おいしい」(67.0%)、「安い」(53.0%)の順

5 . ここ1年間の食に関するニュースで、印象に残っているもの 51

「さくらんぼや米など農作物の盗難相次ぐ」(73.8%)、「米不作、新米値上がり」(57.3%)、「コイヘルペスウイルス病によるコイの大量死」(49.0%)がトップ3。続いて「新型のBSE感染牛確認」(48.3%)、「発泡酒増税」(45.3%)

調査企画

1. 調査目的

昨今、食の安全・安心への関心が高まる一方で、家庭における食生活の実態は、いわゆる中食等の利用がますます増え、食材の知識や、調理技術の世代間伝達が十分行われなくなったという声も聞かれます。また、食への関心の方向や価値観は多様化し、その中で生活者は、家庭の基本的な食生活の在り方を見失うおそれもあります。

この調査は、家庭生活における食の実態と意識を、家庭間のコミュニケーション、世代間の伝達という視点も加えて探ることを目的に実施しました。

2. 調査対象

首都 20km ~ 50km 圏に居住する、子どもを持つ 30 歳 ~ 59 歳の主婦

3. 調査対象の抽出方法

上記調査地域から調査地点を無作為に抽出し、地点内に居住する該当条件の主婦を調査対象とするエリアサンプリング法 (20 地点)

4. 標本抽出数と有効回収数

- ・抽出数：1 地点あたり 25 名 計 500 名
- ・有効回収数：400 名 (有効回収率 80.0%)

5. 調査方法

調査票を用いた自記式留置法

6. 調査期間

2003 年 11 月 20 日 ~ 12 月 2 日

7. 標本構成

(上段：サンプル数、下段、構成比 %)

F1. 年齢 (平均: 44.3 歳)

サンプル数	30 ~ 34 歳	35 ~ 39 歳	40 ~ 44 歳	45 ~ 49 歳	50 ~ 54 歳	55 ~ 59 歳
400	59	73	77	63	76	52
100.0	14.8	18.3	19.3	15.8	19.0	13.0

F 2 . 職 業

サンプル数	常勤	パート・アルバイト	家業従事	その他有職	無職
400	19	167	57	5	152
100.0	4.8	41.8	14.3	1.3	38.0

F 3 . 同居家族人数(自分含む) (平均:4.0人)

サンプル数	2人	3人	4人	5人	6人以上
400	7	112	185	69	27
100.0	1.8	28.0	46.3	17.3	6.8

F 4 . 子どもの人数(非同居含む)(平均:2.0人)

サンプル数	1人	2人	3人	4人以上
400	83	232	75	10
100.0	20.8	58.0	18.8	2.5

F 4 - 1 . 子どもの学齢(MA)

サンプル数	未就学児	小学校1~3年生	小学校4~6年生	中学生	高校生	大学など学生	社会人
400	82	92	83	82	102	70	131
100.0	20.5	23.0	20.8	20.5	25.5	17.5	32.8

F 4 - 2 . 第一子の性別

サンプル数	男子	女子
400	211	189
100.0	52.8	47.3

F 5 . 親世帯との同居の有無

サンプル数	している	していない
400	66	334
100.0	16.5	83.5

F 6 . 住居形態

サンプル数	戸建	集合住宅
400	234	166
100.0	58.5	41.5

調査結果の要約

食生活の実態

家族そろって食事をとるのは、朝食の場合「ほとんどない」が31.5%を占め、平均は週に「2.2回」。夕食は「週に2～3回」(37.5%)の家庭が多く、平均「3.3回」。

日常的に利用することが多いと思われる13種類の料理・食品のうち、「購入することが多い」のは『ドレッシング』『だし』『漬物』。

「我が家の味」のベスト3は「野菜の煮物」「餃子」「肉じゃが」。料理は、和・洋・中・エスニックが混在するものの、種類別になると、「和食」が最も多く、「煮物」「汁物」「ご飯もの」と、日本人のごく日常の料理が我が家の味として健在。

食に関する意識

食の安全について「とても関心がある」(16.3%)、「まあ関心がある」(72.5%)を合わせ“関心がある”人はほぼ9割。関心があるのは、「食品添加物」(85.9%)、「BSE(狂牛病)」(62.5%)、「遺伝子組換え食品」(53.8%)など。「とても関心がある」人は、「残留農薬」「環境ホルモン」「加工食品」「ポストハーベスト」への関心も高い。

安全な食のため、あるいは生活習慣として実行しているのは、「なるべく手作りする」(61.3%)、「食品の表示をよく読む」(57.3%)、「原産地を確認する」(47.8%)、「気になる添加物を使っている食品は利用しない」(40.5%)が主。

食育に関する意識と実態

季節や行事の時に、必ず食べたくなる地元の作物・郷土料理・行事食は「雑煮」「ちらし寿司」「おせち料理」「竹の子ご飯」「赤飯」など。

食べ物や食事について、子どもに言い聞かせたり、守らせようとしたことは、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(73.3%)、「食べ物を粗末にしない」(69.5%)、「好き嫌いをしない」(67.0%)、「食卓に肘をつかない」(58.8%)。子どもに、参加・実行させるようにしてきたことは、「食事後の食器を運ぶ」(75.0%)、「食卓の準備」(65.8%)、「食事の支度」(52.5%)、「食品の買い物」(45.0%)。食事の支度で具体的にさせたことは「お米をとぐ」「野菜などの皮をむく、切る」。

日本の農業に関する意識

農地が「近所にある」(59.0%)、「自家の農地がある」(4.3%)と、身近に“農地がある”(61.3%)家庭が6割強、農地が近所にあることについて「季節感がある」(70.6%)、「緑が豊かでよい」(55.1%)、「採れたての作物が手に入るのでよい」(41.2%)、「農作物のことを子どもに教えられるのでよい」(33.5%)と“プラス評価”。

現在の日本の食糧自給率を、「30%」(23.8%)、「40%」(22.5%)と思っている人が多い一方、あるべき自給率としては、「3分の2くらい」(55.3%)や「半分くらい」(24.8%)。

ここ1年間の食に関するニュースで、印象に残っているものは、1位「さくらんぼや米など農作物の盗難相次ぐ」(73.8%)、2位「米不作、新米値上がり」(57.3%)、3位「コイヘルペスウイルス病によるコイの大量死」(49.0%)、4位「新型のBSE感染牛確認」(48.3%)、5位「発泡酒増税」(45.3%)。

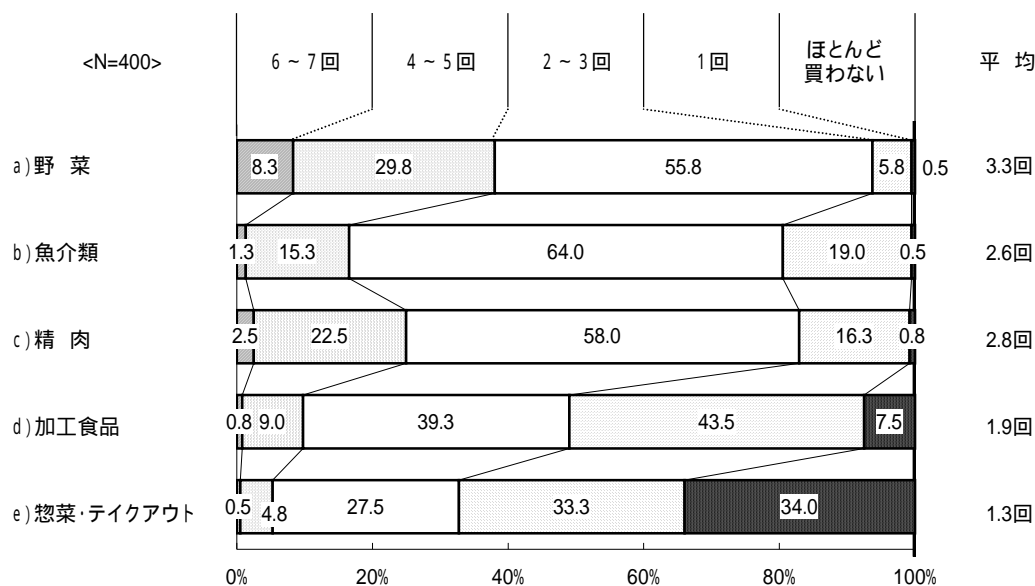
調査結果の内容

子どものいる主婦 400 人に聞く 食生活の実態

1. 日頃、食品の買い物をする 1 週間の平均的な回数

『a)野菜』、『b)魚介類』、『c)精肉』では“週に2回以上”が8割強を占めているが、『加工食品』では約半数とかなり低め。『e)惣菜・テイクアウト』は3割程度にまで下がり、「ほとんど買わない」(34.0%)や「1回」(33.3%)の人に三分

図 1. 日頃、食品の買い物をする 1 週間の平均的な回数



日頃、食品の買い物をする 1 週間の平均的な回数を聞いてみたところ、まず『a)野菜』では、「2~3回」(55.8%)が最も多く、以下、「4~5回」(29.8%)、「6~7回」(8.3%)が続き、“週に2回以上”が9割強を占めて合います。平均回数は、5品目の中で最も多い「3.3回」となっています。

続いて、『b)魚介類』をみると、「2~3回」(64.0%)が圧倒的に多く、次いで「1回」(19.0%)、「4~5回」(15.3%)、「6~7回」(1.3%)の順になり、“週2回以上”が約8割となっています。なお、平均回数は「2.6回」です。

次に、『c)精肉』をみると、「2~3回」(58.0%)が半数を超え、以下、「4~5回」(22.5%)、「1回」(16.3%)、「6~7回」(2.5%)が続き、8割強が“週2回以上”と回答しています。平均回数も「2.8回」となり、『a)野菜』に次いで回数が多くなっています。

次いで、『d)加工食品』をみると、「1回」(43.5%)が最も高く、以下、「2~3回」(39.3%)、「4~5回」(9.0%)、「ほとんど買わない」(7.5%)、「6~7回」(0.8%)の順で続いています。“週2回以上”と“週1回以下”で半数ずつの割合となり、平均回数も「1.9回」と、『野菜』、『魚介類』、『精肉』と比べると、保存がきくためか購入頻度はかなり低めです。

最後に、『e)惣菜・テイクアウト』をみると、「ほとんど買わない」(34.0%)、「1回」(33.3%)がともに約3分の1を占め、「2～3回」(27.5%)、「4～5回」(4.8%)などの“週2回以上”が32.7%で、「ほとんど買わない」「1回」「2回以上」に三分されています。平均回数は「1.3回」で、5品目中最も低い値になっています。

まとめると、生鮮食品の『a)野菜』『b)魚介類』『c)精肉』は、“週2回以上”が8割強と高い割合ですが、『d)加工食品』は、保存がきくためか約半数と少なくなっています。『e)惣菜・テイクアウト』は3割程度に留まり、“出来合いの食品”の購入頻度は、生鮮食品にまだ及ばないようです。

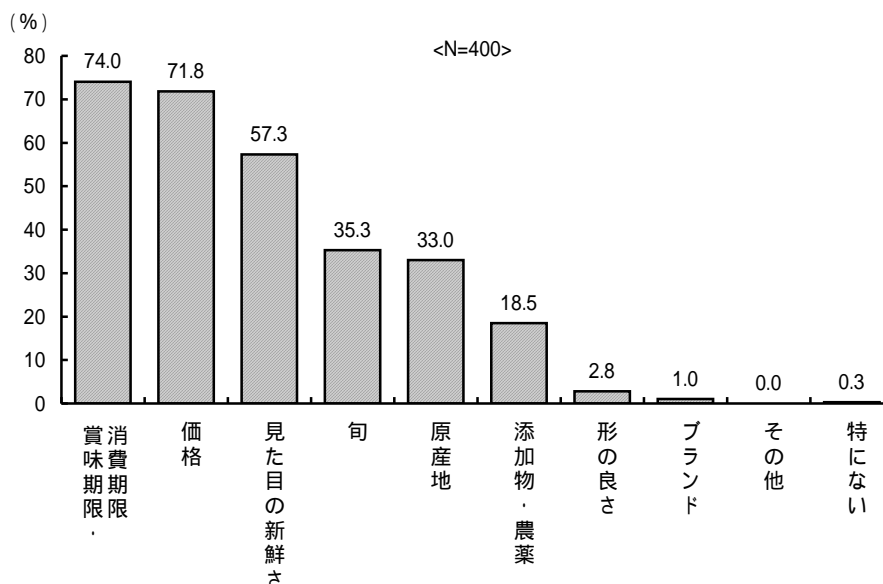
年代別にみると、いずれの食品も40代の平均回数がやや多くなっています。

また、職業の有無別では有職のほうが、同居家族数別では家族数が多いほど、ほとんどの食品の平均買い物回数が多いのですが、『e)惣菜・テイクアウト』のみは、職業の有無別、同居家族数別による違いがみられません。

2. 生鮮食品を選ぶ時、特に気をつけている点

「賞味期限・消費期限」(74.0%)、「価格」(71.8%)、そして「見た目の新鮮さ」(57.3%)などに気をつけている

図 2. 生鮮食品を選ぶ時、特に気をつけている点 (回答は3つまで)



年代	30代 <n=132>	40代 <n=140>	50代 <n=128>
賞味期限・消費期限	73.5	77.1	71.1
価格	86.4	65.7	63.3
見た目の新鮮さ	60.6	65.0	45.3
旬	31.8	33.6	40.6
原産地	29.5	27.1	43.0
添加物・農薬	8.3	22.9	24.2
形の良さ	3.0	3.6	1.6
ブランド	0.8	1.4	0.8
その他	-	-	-
特にない	-	-	0.8

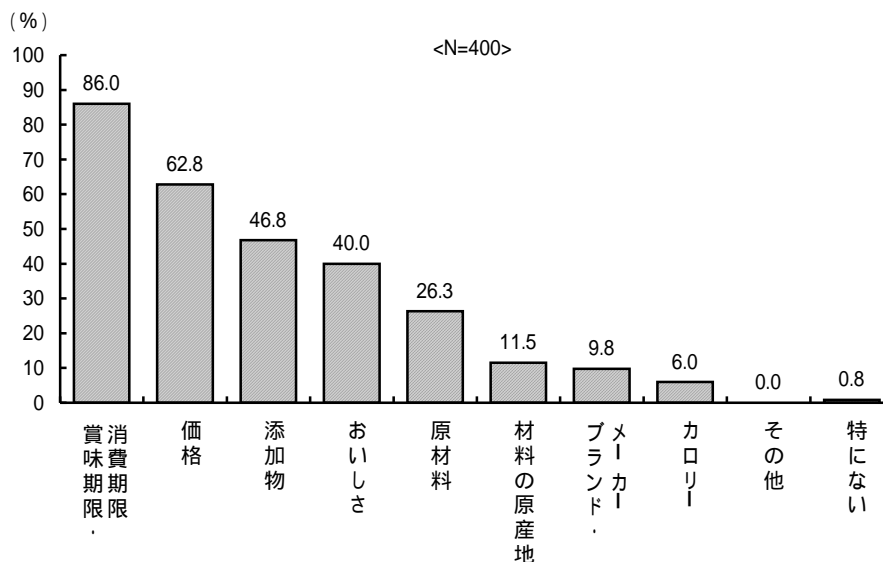
『生鮮食品を選ぶ時、特に気をつけている点』を聞いてみたところ、「賞味期限・消費期限」(74.0%)、「価格」(71.8%)の2点が7割を超え高率になっています。続く「見た目の新鮮さ」(57.3%)でも半数を超える高い割合を示しています。以下、「旬」(35.3%)、「原産地」(33.0%)、「添加物・農薬」(18.5%)などの順で続きます。

年代別にみると、30代は「価格」(86.4%)が他の年代(40代 65.7%、50代 63.3%)に比べ20ポイント以上も高く、一方50代は「原産地」(43.0%)が他の年代(30代 29.5%、40代 27.1%)より10ポイント以上高いのが目につきます。また、年代が高くなるほど、「旬」と「添加物・農薬」が高率で、年代が低いほど、“安全よりも価格の安い生鮮食品”を、年代が高くなるほど、“価格より産地がはっきりとした旬の生鮮食品”を選択する傾向がみられます。

3. 加工食品を選ぶ時、特に気をつけている点

「賞味期限・消費期限」(86.0%)への注目度が断然高い。次いで「価格」(62.8%)

図 3. 加工食品を選ぶ時、特に気をつけている点 (回答は3つまで)



年 代	30代 <n=132>	40代 <n=140>	50代 <n=128>
賞味期限	84.8	84.3	89.1
消費期限	72.0	61.4	54.7
価格	37.1	47.9	55.5
添加物	42.4	47.1	29.7
おいしさ	28.0	23.6	27.3
原材料	11.4	8.6	14.8
材料の原産地	8.3	10.0	10.9
ブレーンカード	5.3	7.1	5.5
その他	-	-	-
特にない	0.8	-	1.6

続いて「加工食品」を“選ぶ時に、特に気をつけている点”について聞いてみたところ、「賞味期限・消費期限」(86.0%)が、第2位の「価格」(62.8%)よりも約25ポイントも高く、群を抜いて高い割合となっています。前項の「生鮮食品」では「賞味期限・消費期限」と「価格」がほぼ同率トップでしたが、「加工食品」においては「賞味期限・消費期限」が一層重視されています。以下、「添加物」(46.8%)、「おいしさ」(40.0%)、「原材料」(26.3%)などの順で続きます。

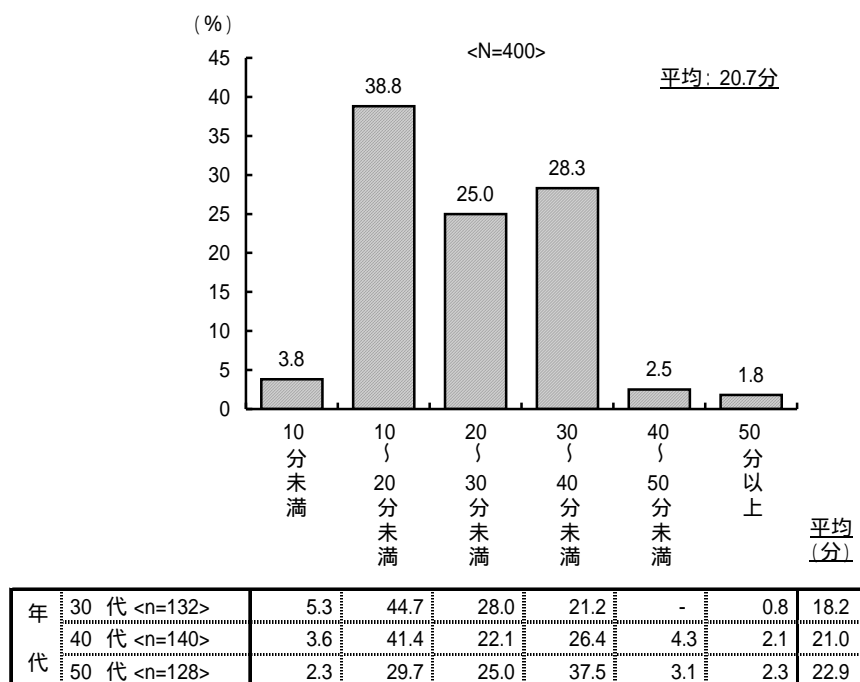
年代別にみると、どの年代も「賞味期限・消費期限」が最も多くなっているという点は変わりませんが、年代が低くなるほど、「価格」が、年代が高くなるほど「添加物」が高率です。「加工食品」についても「生鮮食品」同様、年代が低いほど“価格の安い加工食品”を、年代が高くなるほど“安全な加工食品”を選ぶ傾向がみられます。

4. 普段、食事の支度にかかる時間

『a)朝食』の支度にかかる時間は、「10～20分未満」(38.8%)が最も多い。平均時間は「20.7分」と、朝食の支度にはあまり時間をかけていない

『b)夕食』の支度にかかる時間は、「60～70分未満」(45.8%)が最も多く、平均時間も「56.1分」と『a)朝食』の3倍近い

図 4. 普段、食事の支度にかかる時間（朝食）



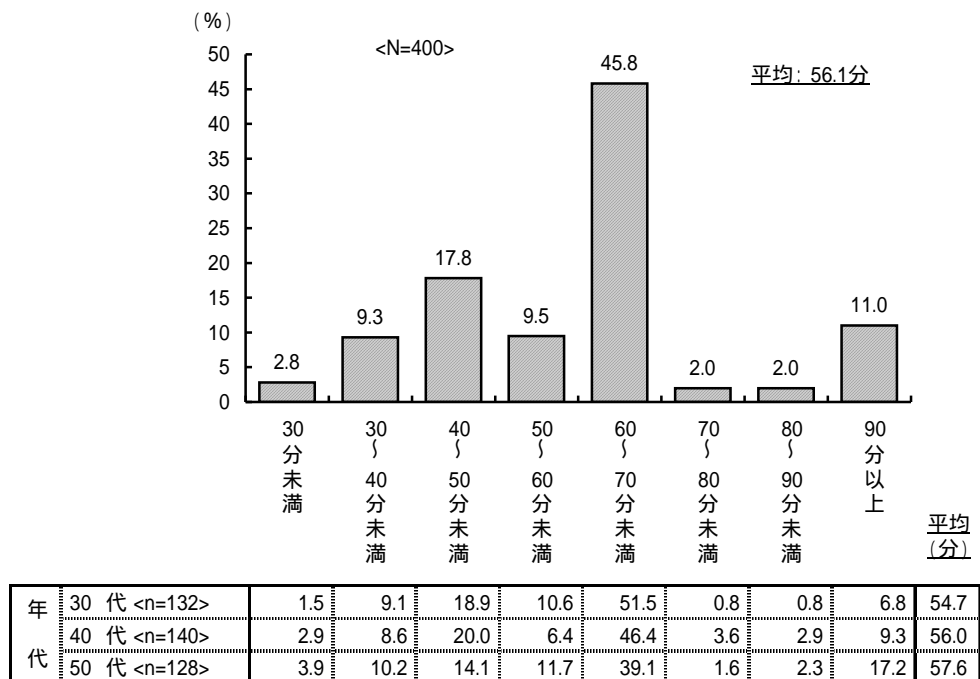
家庭では、“普段の食事の支度”にどのくらいの時間をかけているのでしょうか。

まず、『a)朝食』をみると、最も多いのは、「10～20分未満」(38.8%)で、以下、「30～40分未満」(28.3%)、「20～30分未満」(25.0%)が続き、どちらかと言えば「朝食」の支度にはあまり時間をかけていないことがわかります。平均時間は「20.7分」です。

年代別にみると、年代が低いほど、“30分未満”しかかけていない人が多く、年代が高くなるほど“30分以上”かけている割合が高くなる傾向があります。平均時間をもても、30代(18.2分)より40代(21.0分)、40代より50代(22.9分)と年代が高くなるほど、朝食の支度に時間をかけていることがわかります。

同居家族数別にみると、“家族数が多い”家庭は朝食の支度にかかる時間が長く、“家族数が少ない”家庭では時間が短い傾向が出ています。平均時間でも、2～3人の「19.0分」に対し、4人が「20.5分」、5人以上は「23.2分」と家族数の多少に比例した時間の長さになっています。

図 5 . 普段、食事の支度にかかる時間（夕食）



続いて、『b) 夕食』の支度にかかる時間をみてみます。

「60～70分未満」がほぼ半数（45.8%）を占め、次いで「40～50分未満」（17.8%）が続きますが、「90分以上」（11.0%）が1割ほどいるという点も目立ちます。平均時間は「56.1分」で、『a) 朝食』の「20.7分」の3倍近い時間をかけています。「朝食」に比べ「夕食」は“支度に時間がとれる”“品数を多くする”などの背景が見えてきます。

年代別にみると、50代は「90分以上」かけている人が「17.2%」と、30代（6.8%）、40代（9.3%）に比べて多く、夕食の支度にかかる平均時間も、年代が高くなるほど、わずかずつながら長くなっています。

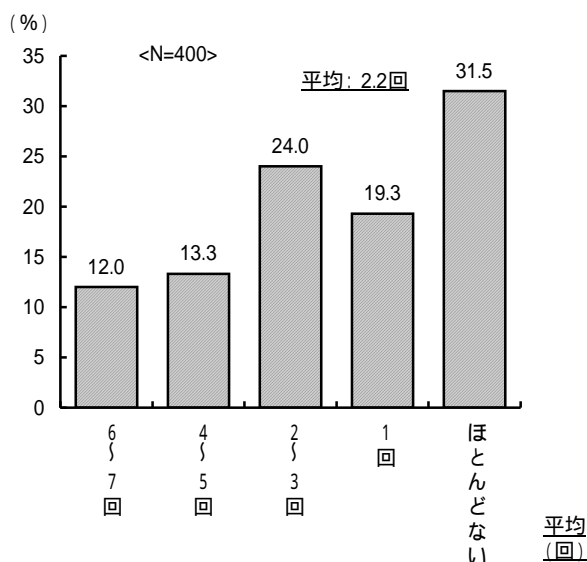
5. 家庭で、家族全員が揃って食事をする回数は週何回か

『朝食』は、「ほとんどない」が3割強(31.5%)を占め、平均「2.2回」

年代が高いほど一緒に食事をする回数が減る

『夕食』は、「2～3回」(37.5%)が最も多く、平均回数は「3.3回」と、『朝食』より1回強多い

図 6. 家庭で、家族全員が揃って食事をする回数は週何回か（朝食）



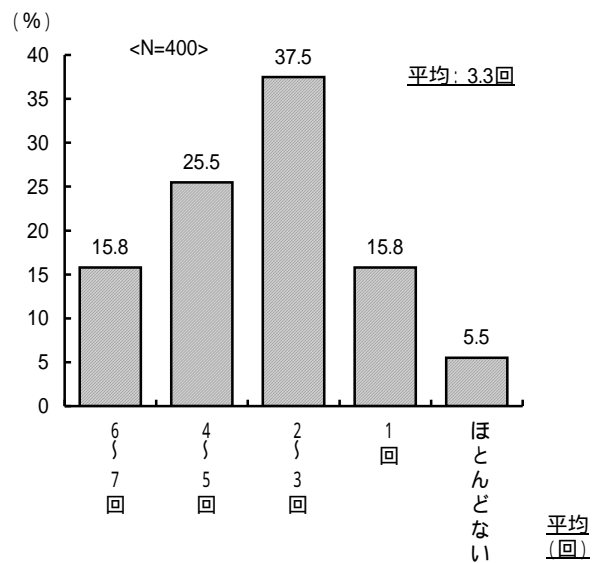
年代	30代 <n=132>	40代 <n=140>	50代 <n=128>	平均 (回)
30代	17.4	10.6	26.5	18.2
40代	8.6	16.4	25.0	19.3
50代	10.2	12.5	20.3	20.3
平均	2.5	2.1	1.9	

1週間に『a) 朝食』を家族揃ってとる回数を聞いたところ、「ほとんどない」(31.5%)が3割強を占め、回答が一番多く、以下、「2～3回」(24.0%)、「1回」(19.3%)、「4～5回」(13.3%)の順になっています。朝は時間がないということもあり、自宅を出る時間に合わせてバラバラにとることが多いようです。中には「6～7回」(12.0%)と毎日のように『朝食』を家族揃って食べる家庭もありますが、平均回数は「2.2回」となっています。

年代別に平均回数をみると、30代(2.5回)、40代(2.1回)、50代(1.9回)と年代が上がるほど少なくなっています。子どもが大きくなるほど生活時間が異なり、一緒に朝食をとることが難しくなるのかも知れません。

同居家族数別にみても、いずれも平均“2.2回前後”と差はなく、特に家族数が多いために家族が揃わないというわけではないようです。

図 7. 家庭で、家族全員が揃って食事をする回数は週何回か（夕食）



年	30代 <n=132>	40代 <n=140>	50代 <n=128>	平均 (回)
20.5	25.8	34.1	18.2	1.5
12.9	25.7	45.7	12.1	3.6
14.1	25.0	32.0	17.2	11.7
				3.0

それでは、『b) 夕食』についてはどうでしょうか。

1週間に、『夕食』を家族全員が揃ってとる回数をみると、「2～3回」(37.5%)が最も多く、次いで、「4～5回」(25.5%)、「6～7回」「1回」(ともに15.8%)の順で、「ほとんどない」(5.5%)はごくわずかとなっています。『夕食』は、『朝食』に比べ家族揃ってとることが多いようです。また、平均回数も「3.3回」となっており、『朝食』の「2.2回」を上回っています。

年代別にみると、『朝食』の場合と同じく、年代が高くなるほど家族揃って『夕食』をとる回数が少なくなる傾向がみられます。

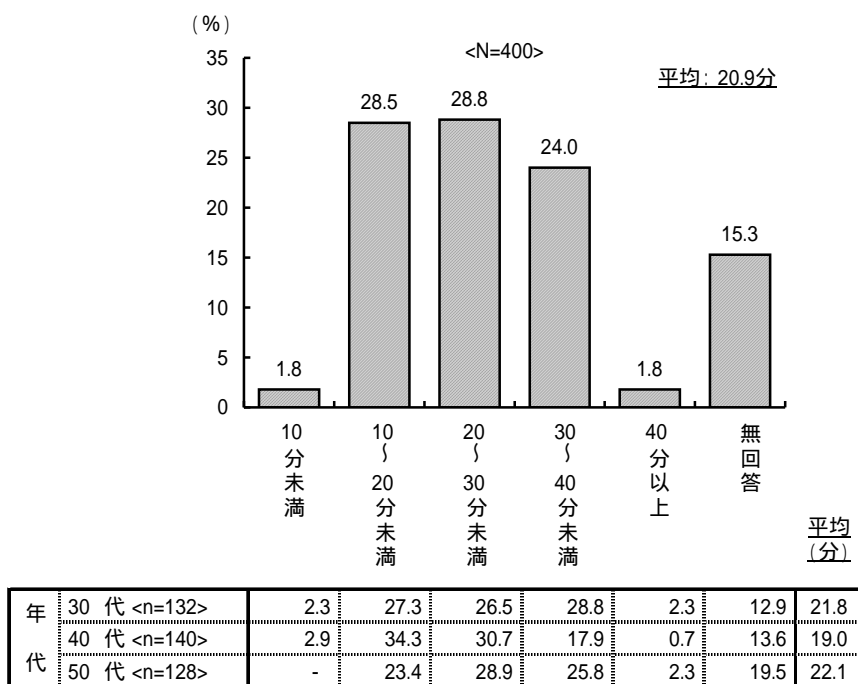
同居家族数別にみると、平均回数は、2～3人 (3.5回)、4人 (3.0回)、5人以上 (3.4回)となっており、4人 家族が少なめとなっています。

6. 家庭で、ふだん家族全員が揃って食事を食べる時間

『朝食』は「20～30分未満」(28.8%)、「10～20分未満」(28.5%)、「30～40分未満」(24.0%)の20～30分が多く、平均「20.9分」

『夕食』は、「60～70分未満」(28.8%)が最も多く、平均時間は「45.7分」と、『朝食』の2倍以上の時間をかけている

図 8. 家庭で、ふだん家族全員が揃って食事を食べる時間（朝食）



ここでは、「ふだん家族全員が揃って食事を食べる時間」をみていきます。

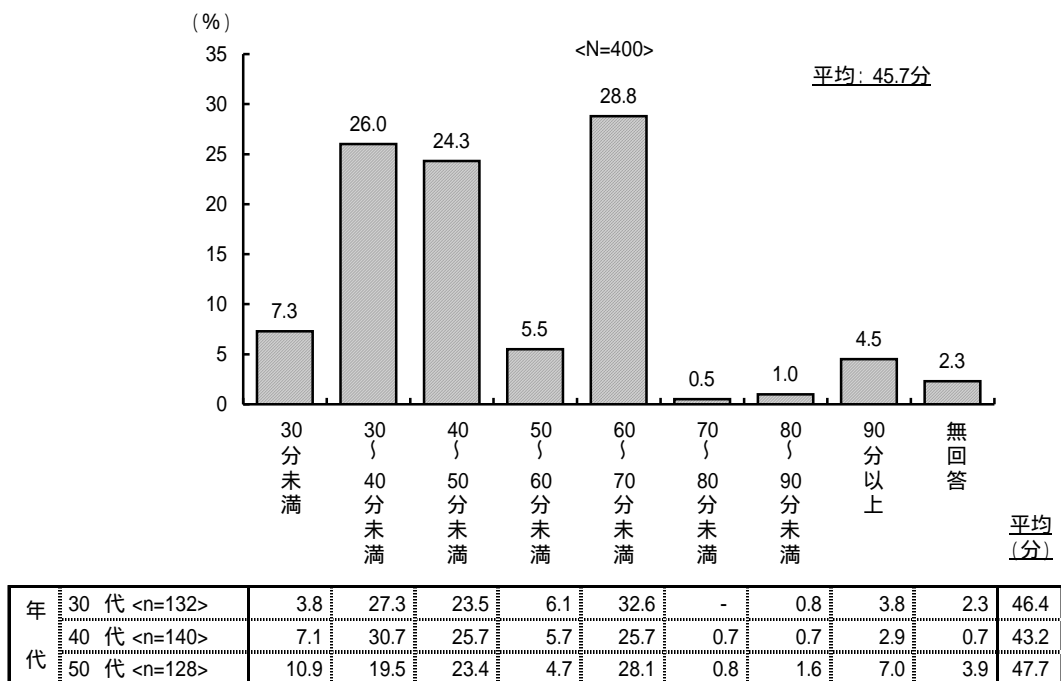
まず、『a朝食』を家族全員が揃って食べる時間をみると、「20～30分未満」(28.8%)、「10～20分未満」(28.5%)、「30～40分未満」(24.0%)が上位で、“10～40分未満”で全体の約8割を占めています。平均時間は「20.9分」となっています。

年代別にみても、それほど大きな変化はありません。

同居家族数別で平均時間をみると、2～3人家族が「19.9分」、4人「20.4分」、5人以上「23.0分」となっており、同居家族数が多いほど、『朝食』をとる時間は長くなっています。

子どもの年齢別にみると、子どもの年齢が低いほど「30～40分未満」が多く、子どもの年齢が上がると“30分未満”が多くなります。子どもが小さいうちは、『朝食』に時間がかかるようです。

図9. 家庭で、ふだん家族全員が揃って食事を食べる時間（夕食）



『b) 夕食』を家族揃って食べる時間はどうでしょうか。

「60～70分未満」(28.8%)が最も多くなっており、以下、「30～40分未満」(26.0%)、「40～50分未満」(24.3%)が続いています。平均時間は「45.7分」となっており、『朝食』(20.9分)の2倍以上の時間を割いていますが、「1時間未満」が3分の2近くを占めています。

年代別にみても、それほど大きな変化はありません。

同居家族数別でも、大きな変化はありませんが、5人以上の家族で、平均時間が「51.6分」と唯一“50分台”であるのが目立ちます。

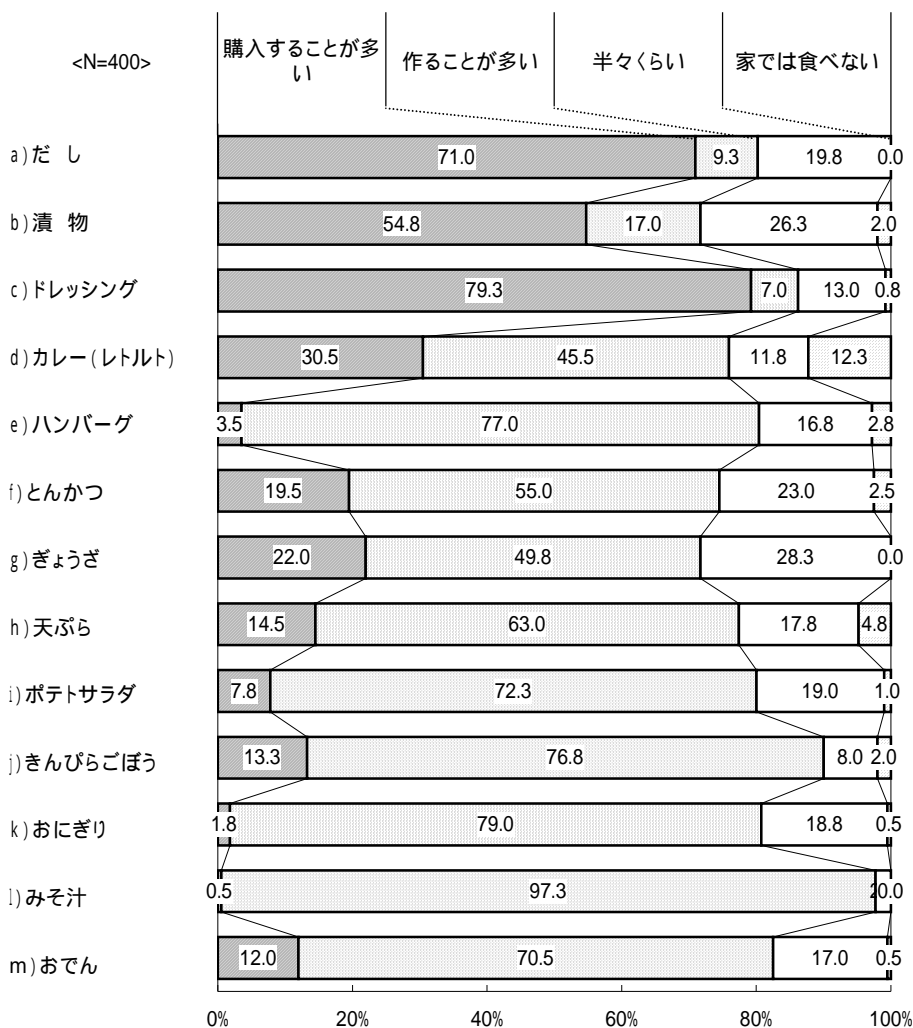
子どもの学齢別では、あまり大きな差はみられません。

7. 料理・食品は、購入することが多いか、自分で作ることが多いか

“作ること”より「購入することが多い」料理・食品として『c)ドレッシング』(79.3%)、『a)だし』(71.0%)、『b)漬物』(54.8%)が上位を占める

ほとんどの料理・食品は「作ることが多い」が中心。ただし『g)ぎょうざ』(『f)とんかつ』『i)ポテトサラダ』『k)おにぎり』などは、「半々くらい」が20%前後

図 10. 料理・食品は購入することが多いか、自分で作ることが多いか



a) ~ m) 13種類の料理・食品について、「購入することが多い」のか、「自分で作ることが多い」のか聞いてみました。

まず、「購入することが多い」とする回答が多い料理・食品をみると、『c)ドレッシング』(79.3%)が約8割と最も高くなっています。以下、『a)だし』(71.0%)、『b)漬物』(54.8%)が続き、上位3つの料理・食品のみが半数を超えています。そのほかは、「カレー」(30.5%)以外は、いずれも3割未満です。

一方、「作ることが多い」料理・食品をみると、ほとんどの料理・食品において高い割合を示しています。特に、『l)みそ汁』(97.3%)では、ほぼ全員が「作ることが多い」と回答しており、“家庭の味”の砦になっていることがうかがえます。以下、『k)おにぎり』(79.0%)、『e)ハンバーグ』(77.0%)、『j)きんぴらごぼう』(76.8%)

『i)ポテトサラダ』(72.3%)、『m)おでん』(70.5%)が7割を超え、食卓の定番と言える料理・食品が高率で続いています。ただし、「半々くらい」が『g)ぎょうざ』(28.3%)、『f)とんかつ』(23.0%)、『i)ポテトサラダ』(19.0%)、『k)おにぎり』(18.8%)、『h)天ぷら』(17.8%)、『m)おでん』(17.0%)および『b)漬物』(26.3%)、『a)だし』(19.8%)で2割前後みられ、状況に応じて使い分けていることがうかがえます。

年代別にみると、全般的に年代が低くなるほど「購入することが多い」、年代が高くなるほど「自分で作ることが多い」とする割合が高くなっています。しかし、「ポテトサラダ」は、好きな人が多いのか、年代が低い家庭ほど「自分で作ることが多い」とする割合が高くなっています。

職業の有無別による大きな違いはありませんが、有職のほうが『a)だし』、『b)漬物』、『f)とんかつ』、『j)きんぴらごぼう』、『k)おにぎり』の手作り度が高めです。

また、後述する食の安全についての関心度別にみると、関心度が高い人ほど、どの料理・食品も「作ることが多い」が一層高くなっています。

8. 「我が家の味」といえばどんな料理か

「野菜の煮物」(43件)、「餃子」(42件)、「肉じゃが」(34件)がベスト3

種類別にみると、圧倒的に「和食」(257件)が多く、「煮物」「汁物」「ご飯もの」が中心。以下「洋食」(92件)、「中華」(64件)

表 1 「我が家の味」といえばどんな料理か<ベスト15>(自由回答:件)

順位		件数
1	野菜の煮物	43
2	餃子	42
3	肉じゃが	34
4	カレーライス	30
5	味噌汁	21
6	ハンバーグ	20
7	豚汁	15
8	唐揚げ	11
8	きんぴらごぼう	11
10	おでん	10
11	コロッケ	9
11	漬物	9
13	スパゲティミートソース	8
14	ロールキャベツ	6
15	チャーハン	5

『「我が家の味」といえばどんな料理か』を自由回答で聞いたところ、1位は「野菜の煮物」(43件)、2位は「餃子」(42件)、そして「肉じゃが」(34件)、「カレーライス」(30件)、「味噌汁」(21件)、「ハンバーグ」(20件)、「豚汁」(15件)、「唐揚げ」「きんぴらごぼう」(ともに11件)などが続いています。従来の“おふくろの味”や、現在の若者、子どもが好きな料理が混在しており、“購入する”人が少なくなかった惣菜もいくつか上位にあがっています。

表 2 .「我が家の味」といえばどんな料理か【種類別】(自由回答：件)

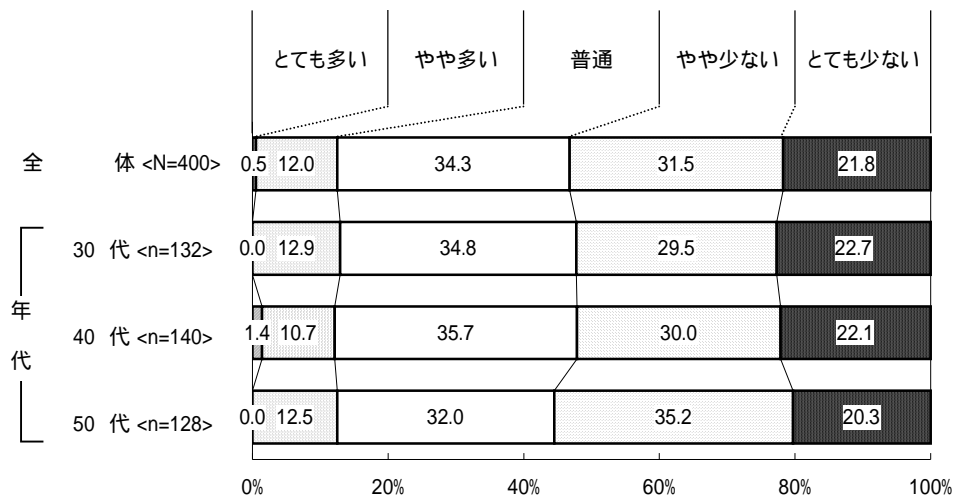
順位			件数	
1	和食	煮物(大根とイカ、肉じゃがなど)	95	257
		汁物(味噌汁、豚汁など)	35	
		ご飯もの	24	
		鍋もの	21	
		漬物	12	
		焼物・揚げ物	各 9	
		炒めもの	5	
		生もの	3	
		その他	4	
		2	洋食	
揚げ物(鶏唐揚、コロッケなど)	23			
汁物(スープ、シチュー)	14			
パスタ	13			
煮物(ロールキャベツ)	6			
サラダ	5			
ピザ	3			
その他	3			
3	中華			(餃子、シューマイ、春巻など)
4	インド	(カレーライス)	27	
5	韓国	(キムチ鍋、ビビンバなど)	5	
6	タイ	(タイカレー)	3	
7	ベトナム	(生春巻)	1	

『我が家の味』としてあげられた料理を、種類別に分けてみました。料理名でみると、和・洋・中・エスニックが混在していますが、やはり「和食」(257件)が最も多く、過半数の人があげています。和食を調理法別にみても「煮物」(95件)、「汁物」(35件)、「ご飯もの」(24件)が多く、日本人のごく日常の料理が我が家の味として健在であることが分かります。続く「洋食」(92件)は「ハンバーグ」「唐揚げ」「コロッケ」がすっかり定着しており、洋食と意識することも少ないでしょう。「パスタ」も定着しつつあるようです。また同様に「インド」(27件)起源の「カレーライス」や「中華」(64件)料理の「餃子」も食卓の定番の上位ですが、「韓国」(5件)以下のアジア料理も進出していることがうかがえます。

9. 家庭で、食材を購入して使い切れなかったり、料理を食べ残したりして、食品を捨てる量

“やや+とても少ない”が「53.3%」と半数以上を占め、“やや+とても多い”(12.5%)は約1割にとどまる

図 11. 家庭で、食材を購入して使い切れなかったり、料理を食べ残したりして、食品を捨てる量



『購入した食材を使い切れない、料理を食べ残す、食品を捨てる量』が多いか少ないかを聞いたところ、3人に1人強(34.3%)が「普通」と回答しています。“とても+やや多い”と“やや+とても少ない”を比較してみると、“やや+とても少ない”(53.3%)が半数以上を占める結果になっています。一方、“とても+やや多い”と回答した家庭は「12.5%」にとどまり、大半の家庭では“食材・料理”を効率よく使っていると自負しているようです。

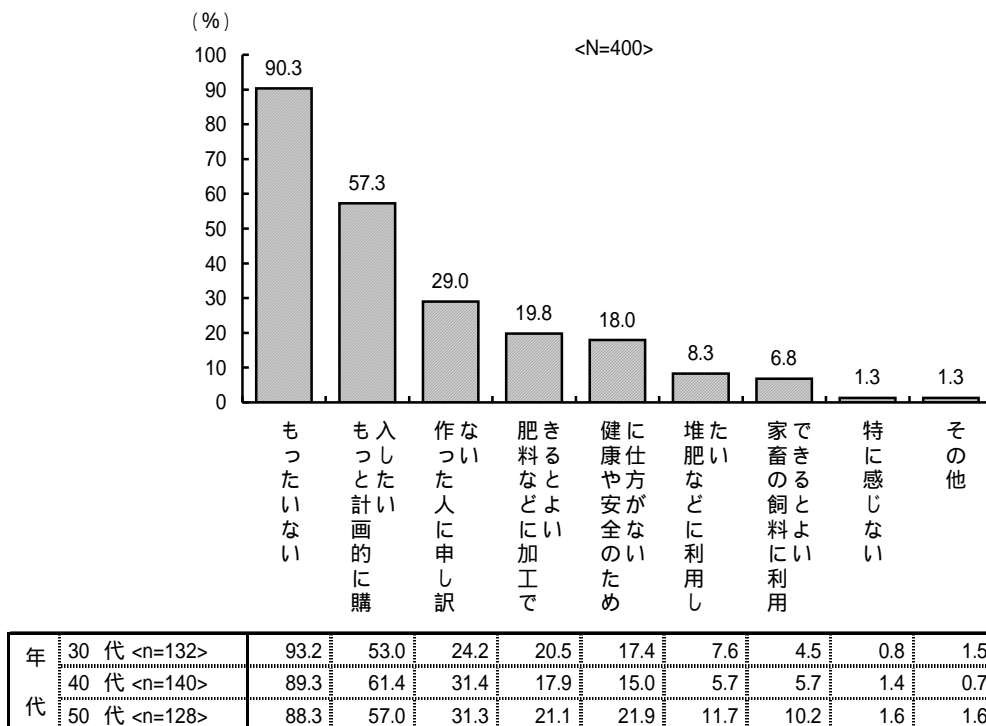
年代別では、特に大きな差はみられません。

同居家族数別にみると、同居家族数が少なくなるほど“とても+やや多い”とする割合が高くなっています。現状では人数に合わせて、少量の買い物をするのが難しく、食材を使い切れないことがあるのでしょう。

10. 食品を捨てることについて、どう感じるか

「もったいない」(90.3%)をはじめ、「もっと計画的に購入したい」(57.3%)、「作った人に申し訳ない」(29.0%)など、捨てることに後ろめたさを感じている人がほとんど

図 12. 食品を捨てることについて、どう感じるか (複数回答)



前問では、食品を捨てる量について聞きましたが、ここでは『食品を捨てることについて、どう思うか』をみていきます。

「食品を捨てることについて、どう感じるか」と聞いたところ、「もったいない」(90.3%)が9割と非常に高く、ほとんどの人にとって「もったいない」という意識は健在のようです。それに続いて「もっと計画的に購入したい」(57.3%)も半数以上が回答しています。以下、「作った人に申し訳ない」(29.0%)、「肥料などに加工できるとよい」(19.8%)の順で、食品を捨てることに後ろめたさを感じている人が多いようです。「健康や安全のために仕方がない」(18.0%)という人もいますが、「特に感じない」(1.3%)人は極めてわずかです。

年代別では、あまり大きな違いはみられません。

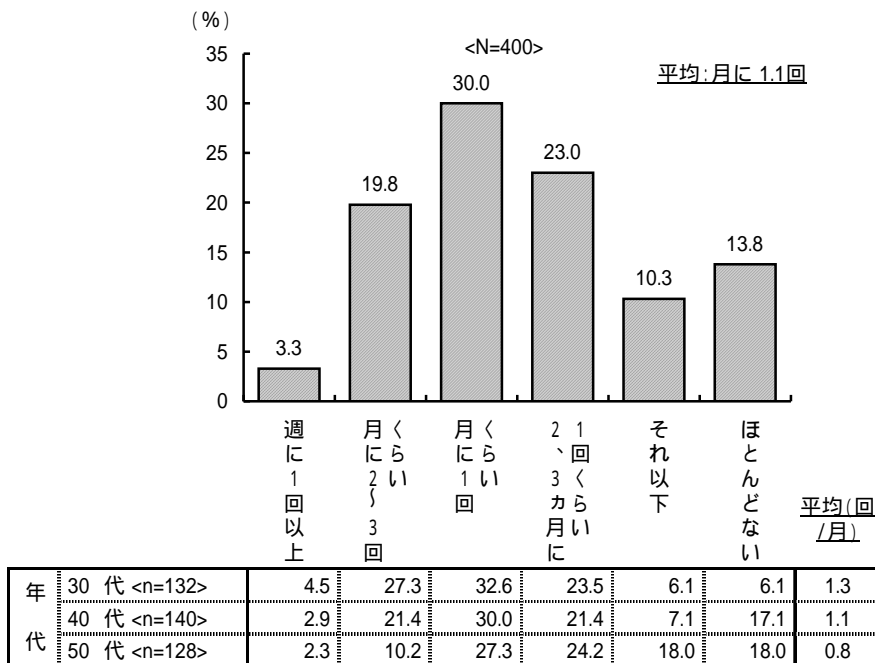
食品を捨てる量別にみても「もったいない」が第一という点は変わりませんが、《とても+やや多い》人は「もっと計画的に購入したい」(72.0%)や「健康や安全のために仕方がない」(30.0%)が、《普通》以下の人に比べて多いのに対し、《やや+とても少ない》人は「作った人に申し訳ない」(36.6%)という気持ちが高くなっています。

11. 家族揃って外食する頻度

「月に1回くらい」(30.0%)が最も多く、平均は月に「1.1回」

子どもが小さい家庭の方が、「外食」する回数が多い

図 13. 家族揃って外食する頻度



『家族揃って外食する頻度』をみると、「月に1回くらい」(30.0%)が最も多くなっています。続いて、「2、3カ月に1回くらい」(23.0%)、「月に2~3回くらい」(19.8%)が多くなっており、それほど頻繁に外食することはないようです。しかし、少数ながら「週に1回以上」(3.3%)外食する家庭もある一方、「ほとんどない」という家庭も1割強(13.8%)と少なくありません。平均回数は月に「1.1回」となっています。

年代別にみると、年代が低いほど“月に1回以上”外食する割合が高くなっており、逆に、年代が高くなるほど「それ(月に2~3回くらい)以下」や「ほとんどない」が高くなっています。平均回数も30代(1.3回)、40代(1.1回)、50代(0.8回)と、年代が低いほど多くなっています。これは、後述の子どもの学齢との関係が大きいようです。

同居家族数別では、それほど大きな差はみられません。

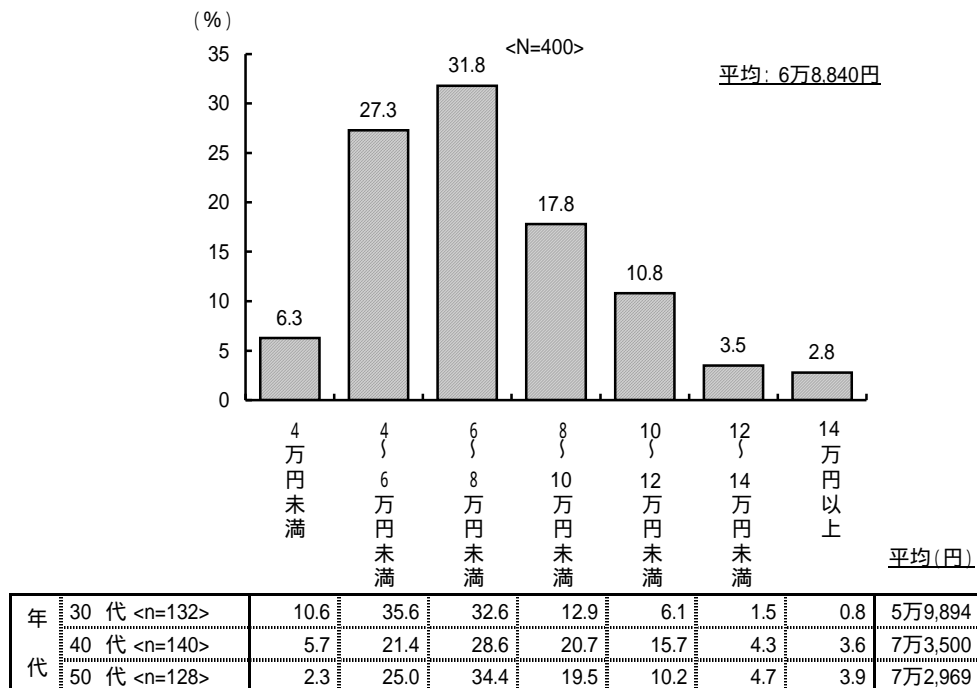
子どもの学齢別では顕著な差があり、高校生以上のみでは平均月に「0.7回」ですが、小学校高学年、中学生がいるでは「1.2回」、小学校低学年以下のみでは「1.6回」と、子どもの学齢が低いほどよく外食しています。子どもが大きくなると、あまり親と一緒に外食に行きたがらなくなるのでしょうか。

12. 家庭の食費は、一カ月に大体いくらくらいか

家庭の一カ月の食費は、「6～8万円未満」(31.8%)、「4～6万円未満」(27.3%)の回答で約6割を占める。平均金額は「6万8,840円」

『野菜など食材を自家生産』している家庭は「7.3%」で、その「自家生産食品」を市価に換算した一カ月の平均金額は「5,138円」

図 14. 家庭の食費は、一カ月に大体いくらくらいか



一カ月にかかる家庭の食費について聞いたところ、「6～8万円未満」(31.8%)が約3割で最も高く、次に多い「4～6万円未満」(27.3%)を合わせた「4～8万円未満」が全体の約6割を占めています。以下「8～10万円未満」(17.8%)、「10～12万円未満」(10.8%)などが続き、平均金額は「6万8,840円」です。

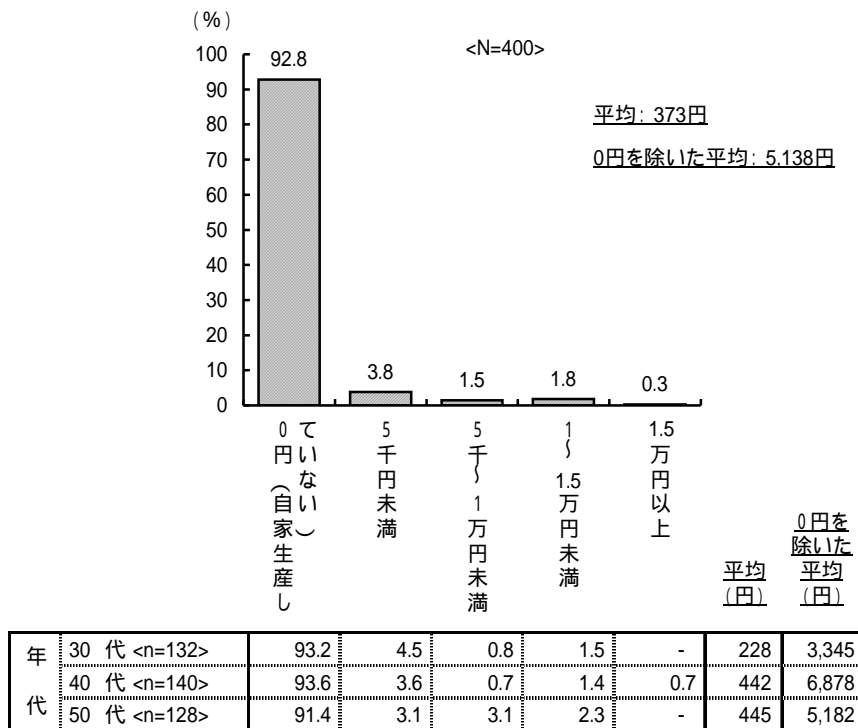
年代別に平均金額をみると、30代が「5万9,894円」で、40代(7万3,500円)50代(7万2,969円)と比較すると、1万円以上低くなっているのが目立ちます。

同居家族数別に平均金額をみると、2～3人の家族は、(6万2,479円)で、4人(6万8,546円)5人以上(7万7,292円)と同居家族数が多いほど高く、特に5人以上の家族数になると急に高くなります。

また、家族揃っての夕食回数が多い家庭は、平均食費が低く、家族揃っての夕食回数が多い家庭は、食費が高め(月に2回以上、7万380円)です。

なお、次項でみる自家生産の有無別にみると、野菜などを自家生産している家庭の一カ月の平均食費は「6万1,724円」で、全体より7,000円以上低くなっています。

図 15 . 自家生産食品を市価に換算した場合、一カ月に大体いくらくらいか



続いて、“自家生産した食品”を「一カ月にかかる食費」として市価に換算した場合について聞きました。

まず、野菜などを自家生産している家庭は、全体の「7.3%」と、ごく少なく、「92.8%」の家庭が「自家生産はしていない」と回答しています。平均金額も全体では「373円」とかなり低額です。“自家生産をしている”家庭の換算額は「5千円未満」(3.8%)から「1万5千以上」(0.3%)と様々で、平均金額は「5,138円」。自家生産している家庭の平均食費(6万1,724円)と合わせると「6万6,862円」になります。“自家生産をしていない”家庭の平均食費は「6万9,396円」です。

年代別にみると、どの年代も「0円(自家生産していない)」が9割以上の多数を占めている点に変わりはありませんが、0円を除いた平均金額は、30代(3,345円)が、40代(6,878円)、50代(5,182円)に比べて低めです。

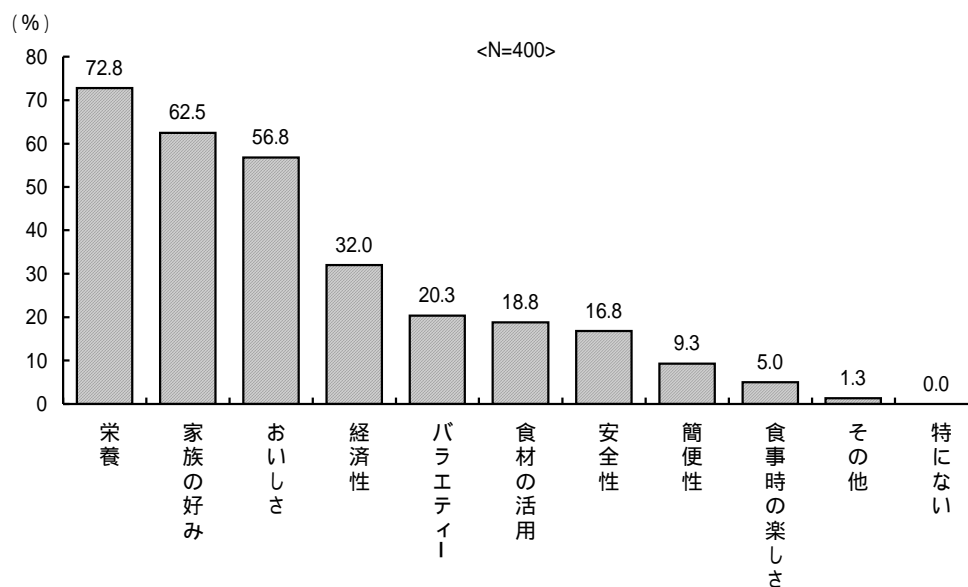
住居形態別にみると、集合住宅では“自家生産している”(2.4%)家庭がほとんどないのに対し、戸建て(10.7%)では1割を超えています。

子どものいる主婦 400 人に聞く 食に関する意識

1. 毎日の食生活で特に重視していること

「栄養」(72.8%)が最も多く、家族の健康が最優先。続く「家族の好み」(62.5%)、「おいしさ」(56.8%)がトップ3

図 16 . 毎日の食生活で特に重視していること (回答は3つまで)



年 代	30代 <n=132>	40代 <n=140>	50代 <n=128>	栄養	家族の好み	おいしさ	経済性	バラエティー	食材の活用	安全性	簡便性	食事時の楽しさ	その他	特になし
30代 <n=132>	67.4	61.4	58.3	40.2	17.4	18.9	14.4	11.4	5.3	0.8	-	-	-	-
40代 <n=140>	75.0	67.9	60.7	29.3	16.4	17.1	13.6	7.9	7.1	1.4	-	-	-	-
50代 <n=128>	75.8	57.8	50.8	26.6	27.3	20.3	22.7	8.6	2.3	1.6	-	-	-	-

『毎日の食生活で特に重視していること』を聞いてみたところ、「栄養」(72.8%)が最も多く7割強が回答しています。家族の健康が最優先されているようです。続いて「家族の好み」(62.5%)、「おいしさ」(56.8%)までを半数以上があげています。以下、「経済性」(32.0%)、「バラエティー」(20.3%)、「食材の活用」(18.8%)、「安全性」(16.8%)などの順となっています。

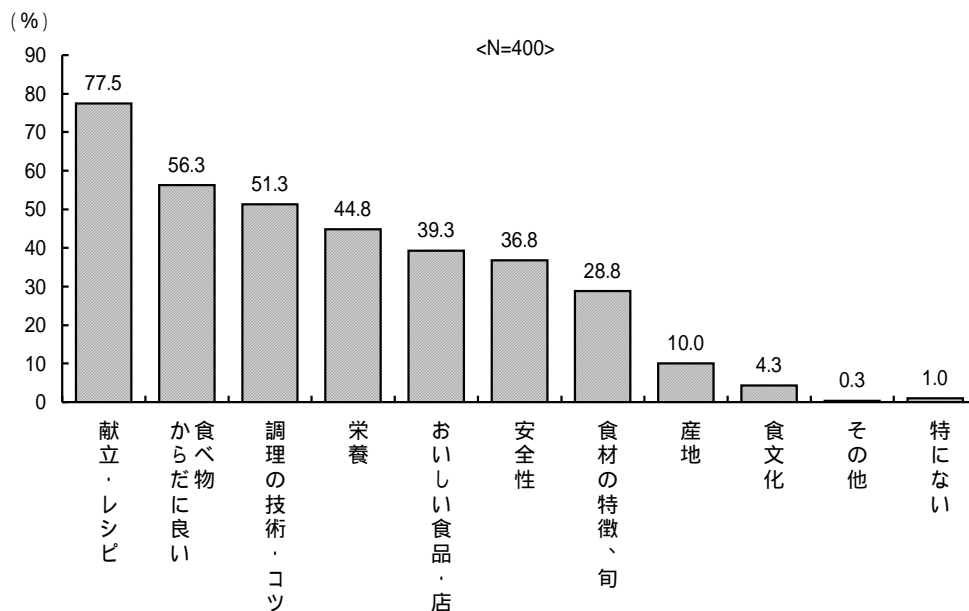
年代別にみると、年代が高いほど「栄養」が一層高く、年代が低いほど「経済性」を重視する傾向がみられます。

同居家族数別にみると、同居家族数が多いほど「経済性」を追求し、一方、同居家族数が少ないほど「安全性」を重視する傾向がみられます。

2. 食について、関心がある・日頃から知りたいと思う・情報を集めている事柄

「献立・レシピ」(77.5%)が突出して高く、献立を考える苦勞がうかがえる。以下、「からだに良い食べ物」(56.3%)、「調理の技術・コツ」(51.3%)、「栄養」(44.8%)などの情報にアンテナを張る

図 17. 食について関心がある、日頃から知りたいと思う、情報を集めている事柄（複数回答）



年代	30代 <n=132>	40代 <n=140>	50代 <n=128>
献立・レシピ	81.8	82.9	67.2
からだに良い食べ物	58.3	53.6	57.0
調理の技術・コツ	56.8	43.6	53.9
栄養	45.5	49.3	39.1
おいしい食品・店	46.2	32.1	39.8
安全性	33.3	31.4	46.1
食材の特徴、旬	22.7	33.6	29.7
産地	9.1	10.0	10.9
食文化	3.8	4.3	4.7
その他	-	-	0.8
特にない	0.8	2.1	-

食について関心を持っていること、日頃から情報を集めている事柄をみると、「献立・レシピ」(77.5%)が突出して高くなっています。献立は毎日考えなければならず、苦勞している人の多いことがうかがえます。以下、「からだに良い食べ物」(56.3%)、「調理の技術・コツ」(51.3%)、「栄養」(44.8%)、「おいしい食品・店」(39.3%)、「安全性」(36.8%)、「食材の特徴、旬」(28.8%)、「産地」(10.0%)などの順で続きます。なお、「特にない」(1.0%)と回答した人は極めて少なく、ほとんどの人は何らかのことに関心を持って情報を集めています。

年代別にみると、30代 40代 は「献立・レシピ」(順に 81.8%、82.9%)が、50代(67.2%)に比べ約15ポイント高くなっており、逆に50代は「安全性」(46.1%)が30代(33.3%)及び、40代(31.4%)より約13ポイント高くなっているのが目につきます。30代 40代 は、「献立・レシピ」に苦勞しており、50代は主婦歴が長いいためか「献立・レシピ」にはあまり困っておらず、その分「安全性」に気を遣う余裕があることが分かります。

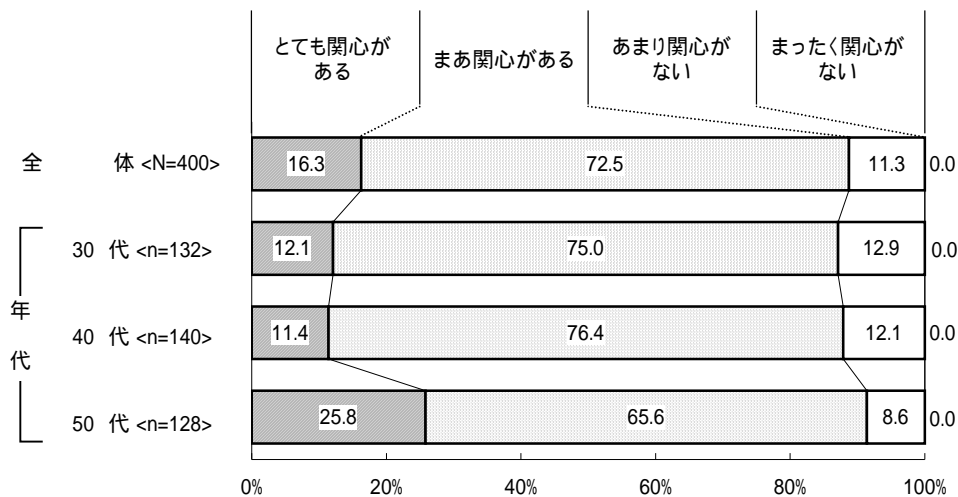
同居家族数別にみると、家族数が増えるほど「献立・レシピ」「からだに良い食べ物」「栄養」などが高く、逆に同居家族数が少なくなるほど「安全性」への意識が高まっています。

3. 「食の安全」について、どの程度関心を持っているか

「とても関心がある」は16.3%。「まあ関心がある」(72.5%)を合わせると、ほぼ9割が“関心がある”

関心のある具体的内容は、「食品添加物」(85.9%)が最も多く、以下、「BSE(狂牛病)」(62.5%)、「遺伝子組換え食品」(53.8%)など

図 18. 「食の安全」について、どの程度関心を持っているか

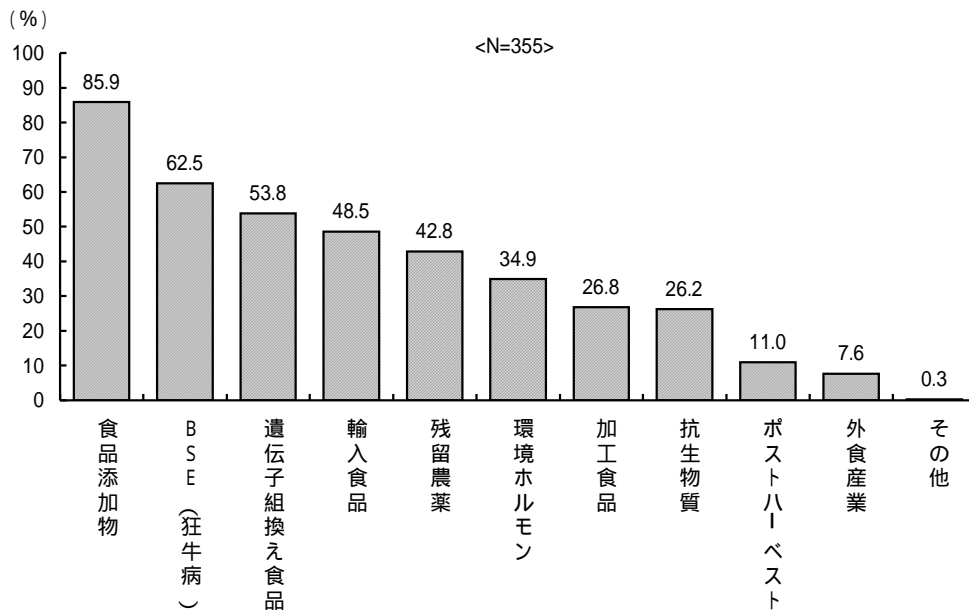


“「食の安全」についての関心度”を聞いてみたところ、「とても関心がある」人は16.3%ですが、「まあ関心がある」(72.5%)という人は多く、両者を合わせた“関心がある”(88.8%)人は、ほぼ9割にのぼり、「食の安全」への関心の広がりがうかがえます。なお、「あまり関心がない」のは1割強(11.3%)、「まったく関心がない」(0.0%)は皆無です。

年代別にみても、30代(87.1%)、40代(87.9%)は9割弱、50代(91.4%)では9割以上が“関心がある”と回答しています。特に50代は「とても関心がある」(25.8%)が4人に1人みられます。

子どもの学齢別にみると、学齢を問わず関心がある人は多くなっていますが、小学校低学年以下のみでは、「まあ関心がある」(80.5%)層が特に多く、子育てする中で「食の安全」に対する関心も育っていることがうかがえます。

図 19 .「食の安全」について、具体的にどんなことに関心があるか（複数回答）



年 代	30代 <n=115>	40代 <n=123>	50代 <n=117>
食品添加物	83.5	85.4	88.9
BSE (狂牛病)	61.7	65.9	59.8
遺伝子組換え食品	56.5	50.4	54.7
輸入食品	44.3	48.8	52.1
残留農薬	41.7	39.8	47.0
環境ホルモン	33.9	32.5	38.5
加工食品	20.9	25.2	34.2
抗生物質	23.5	25.2	29.9
ポストハーベスト	7.8	11.4	13.7
外食産業	9.6	4.9	8.5
その他	-	-	0.9

「食の安全」について“とても+まあ関心がある”と回答した人に、『具体的にどんなことに関心があるのか』聞いてみました。

“関心がある”こととして、「食品添加物」(85.9%)が8割を超え最も高くなっています。それに続く「BSE(狂牛病)」(62.5%)、「遺伝子組換え食品」(53.8%)は半数以上があげており、以下「輸入食品」(48.5%)、「残留農薬」(42.8%)、「環境ホルモン」(34.9%)、「加工食品」(26.8%)、「抗生物質」(26.2%)、「ポストハーベスト」(11.0%)、「外食産業」(7.6%)の順となっています。

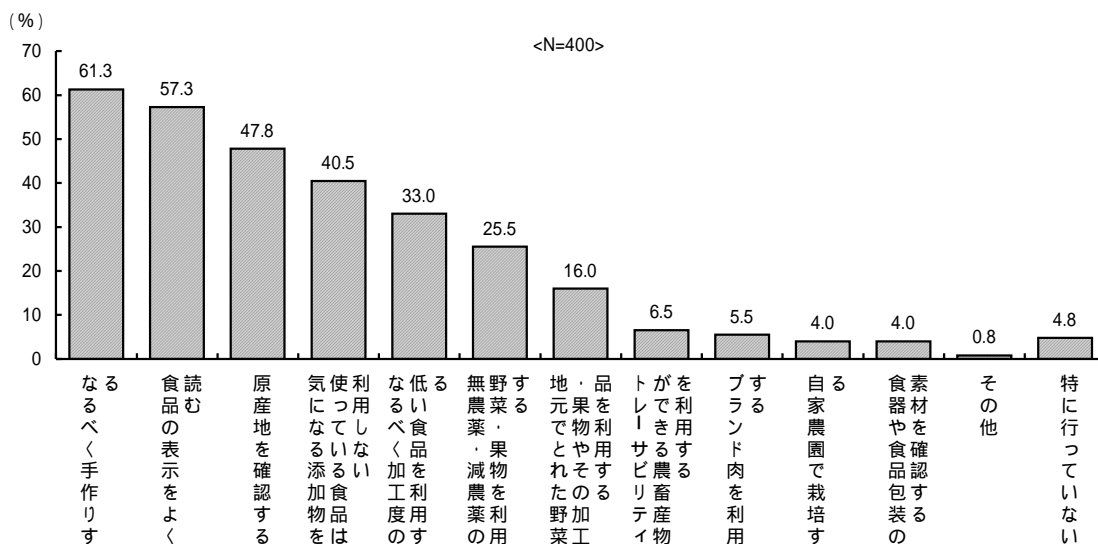
年代別にみると、年代が上がるほどほとんどの項目が高率になりますが、30代は「遺伝子組換え食品」(56.5%)、40代は「BSE(狂牛病)」(65.9%)が他年代に比べてやや高めです。

なお、食の安全にとても関心がある人は、全般にまあ関心がある人に比べて高率で、特に「残留農薬」(64.6%)、「環境ホルモン」(49.2%)、「加工食品」(43.1%)、「ポストハーベスト」(24.6%)は20ポイント前後の差がみられます。まあ関心がある人の方が高いのは、「BSE(狂牛病)」(63.1%)のみです。

4. 「安全な食」のための対応や、生活習慣として、実行していること

「なるべく手作りする」(61.3%)、「食品の表示をよく読む」(57.3%)、「原産地を確認する」(47.8%)、「気になる添加物を使っている食品は利用しない」(40.5%)が4割を超える

図 20. 「安全な食」のための対応や、生活習慣として、実行していること（複数回答）



年代	30代 <n=132>	40代 <n=140>	50代 <n=128>
なるべく手作りする	62.1	61.4	67.2
食品の表示をよく読む	61.4	56.4	53.9
原産地を確認する	46.2	45.0	52.3
気になる添加物を使っている食品は利用しない	32.6	45.7	43.0
なるべく加工度の低い食品を利用する	31.8	30.7	36.7
無農薬・減農薬の野菜・果物を利用する	18.2	27.9	30.5
地元でとれた野菜・果物やその加工品を利用する	17.4	15.7	14.8
トレーサビリティーが利用できる農畜産物を利用する	2.3	6.4	10.9
ブランド肉を利用する	6.1	6.4	3.9
自家農園で栽培する	3.0	3.6	5.5
食材や食品包装の素材を確認する	2.3	4.3	5.5
その他	-	2.1	-
特に行ってない	5.3	5.0	3.9

『「安全な食」のための対応や、生活習慣として、実行していること』の問いに関しては、「なるべく手作りする」(61.3%)、「食品の表示をよく読む」(57.3%)、「原産地を確認する」(47.8%)、「気になる添加物を使っている食品は利用しない」(40.5%)が4割を超えています。以下、「なるべく加工度の低い食品を利用する」(33.0%)、「無農薬・減農薬の野菜・果物を利用する」(25.5%)、「地元でとれた野菜・果物やその加工品を利用する」(16.0%)などが続いています。「特に行ってない」のは「4.8%」にとどまり、ほとんどの人は「安全な食」のために何らかのことを実行していることが分かります。

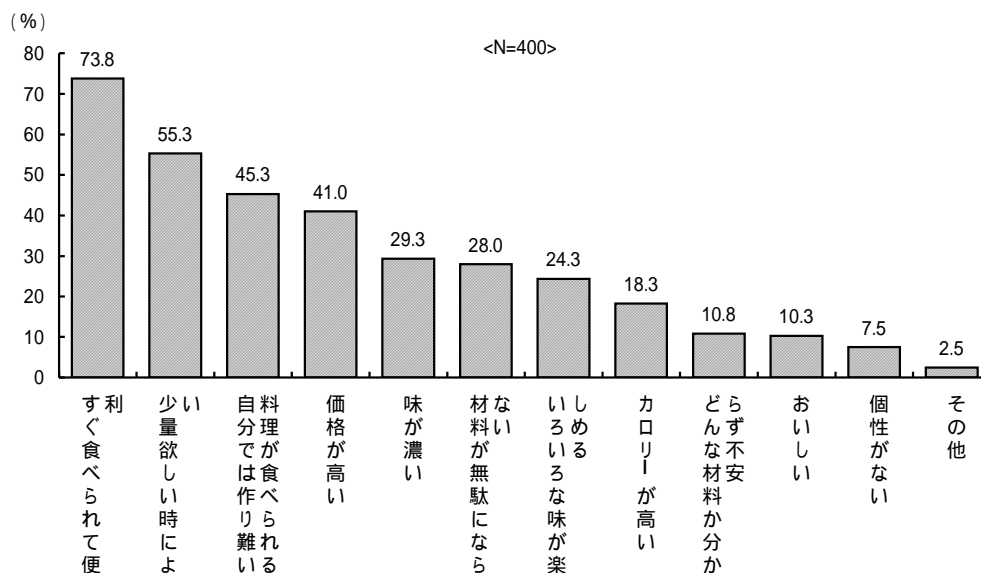
年代別にみると、年代が低いほど「食品の表示をよく読む」と「地元でとれた野菜・果物やその加工品を利用する」の率が高く、年代が高くなるほど「無農薬・減農薬の野菜・果物を利用する」が高率になる傾向がみられます。

食の安全への関心度が高い人ほど、いずれの項目とも高率で、とても関心がある人は、特に「無農薬・減農薬の野菜・果物を利用する」「なるべく加工度の低い食品を利用する」(共に47.7%)で、他グループとの差が大きくなっています。

5. 出来合いの惣菜について、どう考えているか

出来合いの惣菜は、「すぐ食べられて便利」(73.8%)、「少量欲しい時によい」(55.3%)、「自分では作り難い料理が食べられる」(45.3%)といった肯定的な意見が主になっているが、「価格が高い」(41.0%)、「味が濃い」(29.3%)との否定的な意見も少なくない

図 21. 出来合いの惣菜について、どう考えているか (複数回答)



年 代	30代 <n=132>	40代 <n=140>	50代 <n=128>
すぐ食べられて便利	69.7	80.7	70.3
少量欲しい時によい	48.5	60.0	57.0
自分では作り難い料理が食べられる	46.2	47.9	41.4
価格が高い	44.7	42.9	35.2
味が濃い	24.2	27.1	36.7
材料が無駄にならない	22.7	25.0	36.7
いろいろな味が楽しめる	22.7	26.4	23.4
カロリーが高い	18.2	16.4	20.3
どんな材料が分からず不安	5.3	10.0	17.2
おいしい	13.6	12.9	3.9
個性がない	6.1	7.1	9.4
その他	3.0	2.1	2.3

“出来合いの惣菜”に対する評価をみると、「すぐ食べられて便利」(73.8%)が最も高く、「少量欲しい時によい」(55.3%)、「自分では作り難い料理が食べられる」(45.3%)までの上位3項目はいずれも肯定的な意見となっています。しかし、続く「価格が高い」(41.0%)、「味が濃い」(29.3%)といったマイナスの要素をあげる回答も少なくありません。以下、「材料が無駄にならない」(28.0%)、「いろいろな味が楽しめる」(24.3%)、「カロリーが高い」(18.3%)、「どんな材料が分からず不安」(10.8%)など、肯定的・否定的どちらの評価もみられますが、全般的にみると肯定的にとらえる意見が多いようです。

年代別にみると、年代が低いほど「価格が高い」や「おいしい」が高まり、年代が高くなると「味が濃い」や「材料が無駄にならない」「どんな材料が分からず不安」が高くなる傾向がみられます。

また、食の安全への関心度別にみると、関心度が低い人ほど「すぐ食べられて便利」「自分では作り難い料理が食べられる」「おいしい」などが高く、関心度が高い人では「味が濃い」「カロリーが高い」「どんな材料が分からず不安」が高くなっています。

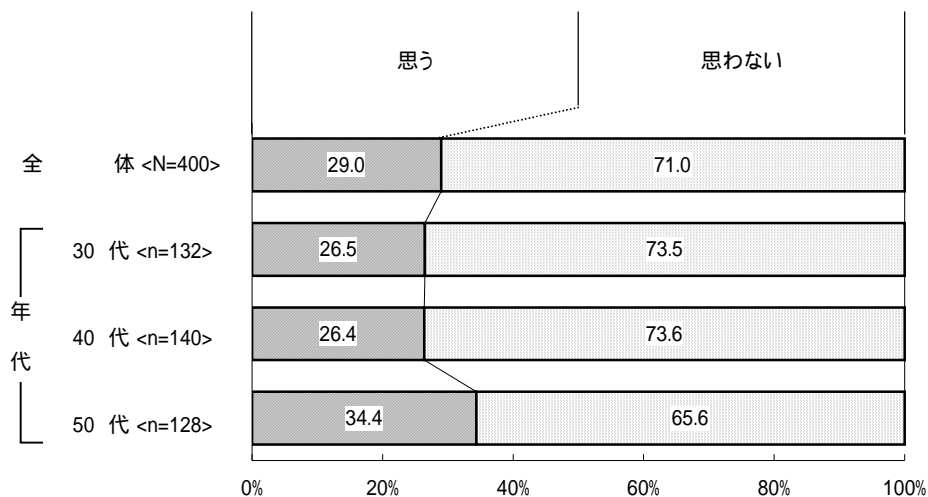
6. 自分はグルメ（美食家）だと思うか

「思う」人は3割弱(29.0%)にとどまり、「思わない」(71.0%)人の方がはるかに多い

「グルメだと「思う」理由は、圧倒的に「おいしいものが好きだから」(92.2%)

「グルメだと「思わない」理由は、「有名店で食べることが少ないから」(54.9%)、「何を食べてもおいしいから」(41.9%)、「まわりの人のほうがグルメに見えるので」(30.3%)など

図 22. 自分はグルメ（美食家）だと思うか



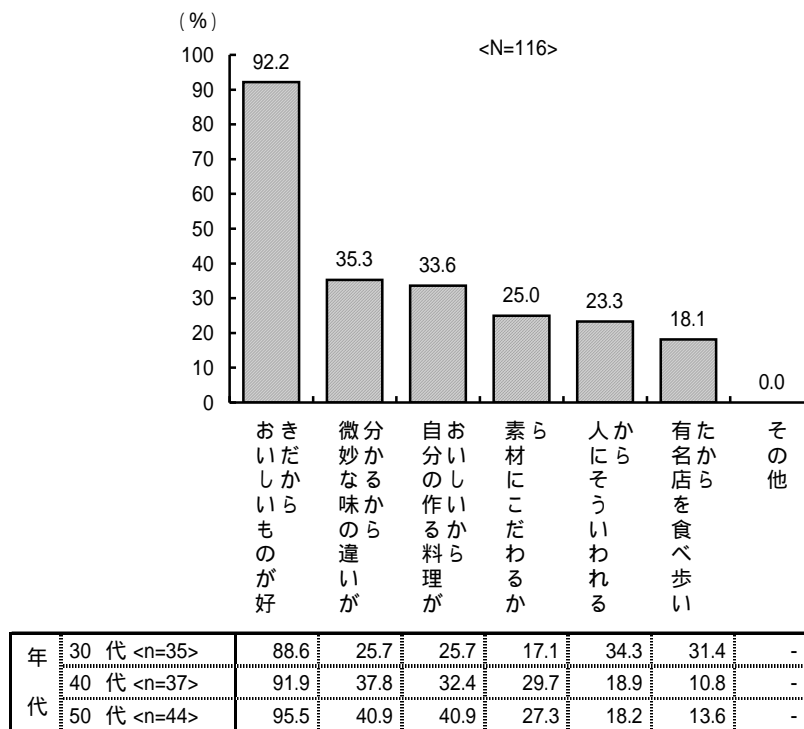
『自分がグルメだと思うか』との問いに、「思う」(29.0%)と回答した人は3割弱にとどまり、7割強が「思わない」(71.0%)と回答しています。昨今はグルメブームとされていますが、この結果から自分自身をグルメだと思っている人は意外と少ないことが分かります。

年代別にみると、グルメだと「思う」割合は、50代(34.4%)が、30代(26.5%)、40代(26.4%)に比べ10ポイント近く高くなっています。

同居家族数別にみると、同居家族数が増えるほどグルメだと「思う」割合が低く、同居家族数が5人以上の人では「21.9%」ですが、4人の人では「28.6%」、2~3人になると「35.3%」と3割を超えています。

食の安全度への関心が高い人ほど、また、家族揃っての外出頻度が高い人ほど、グルメだと「思う」割合が高くなっています。

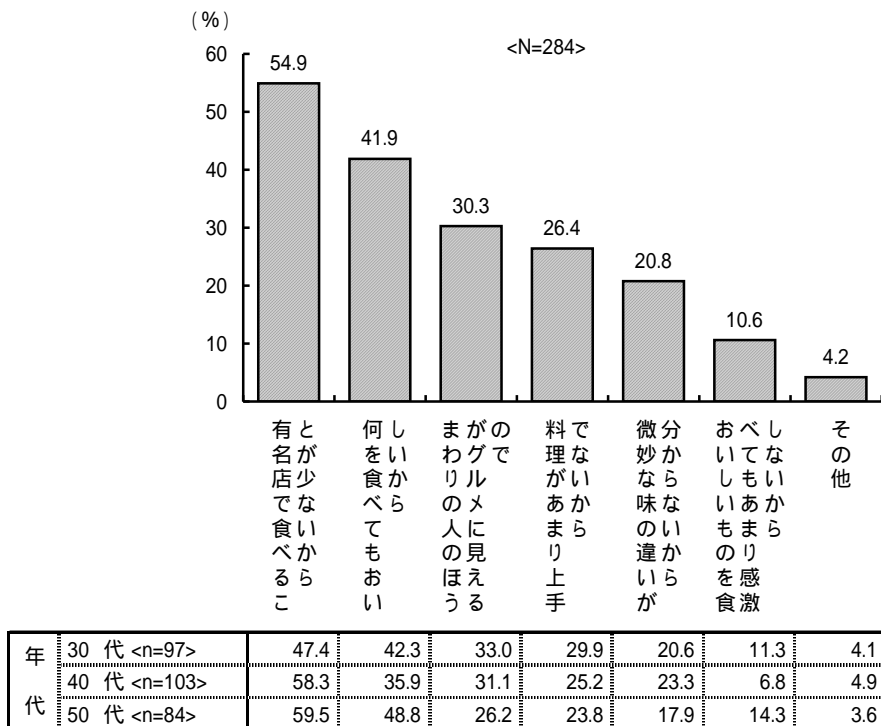
図 23 . グルメだと思う理由 (複数回答)



前の質問で、グルメだと「思う」と回答した人にその理由を聞いてみたところ、「おいしいものが好きだから」(92.2%)が圧倒的に多く、ほぼ全員が回答しています。“グルメ”の条件は関心の高さにあると考えているようです。以下、「微妙な味の違いが分かるから」(35.3%)、「自分の作る料理がおいしいから」(33.6%)、「素材にこだわるから」(25.0%)、「人にそういわれるから」(23.3%)、「有名店を食べ歩いたから」(18.1%)が続いています。

年代別にみると、年代が高くなるほど「おいしいものが好きだから」「微妙な味の違いが分かるから」「自分の作る料理がおいしいから」が高くなっており、特に50代は、「おいしいものが好きだから」(95.5%)が非常に高率です。逆に30代は「有名店を食べ歩いたから」(31.4%)が他の年代に比べ約20ポイント、「人にそういわれるから」(34.3%)が約15ポイント高いのが目につきます。全般的に、年代が低いと“自分より他人”、年代が高いと“他人より自分”の感覚・意見で“グルメ”だと思う傾向がうかがえます。

図 24 . グルメだと思わない理由（複数回答）



次に、グルメだと「思わない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「有名店で食べる機会が少ないから」が5割強（54.9%）と最も多く、以下、「何を食べてもおいしいから」（41.9%）、「まわりの人のほうがグルメに見えるので」（30.3%）、「料理があまり上手でないから」（26.4%）、「微妙な味の違いが分からないから」（20.8%）、「おいしいものを食べてもあまり感激しないから」（10.6%）などの順となっています。

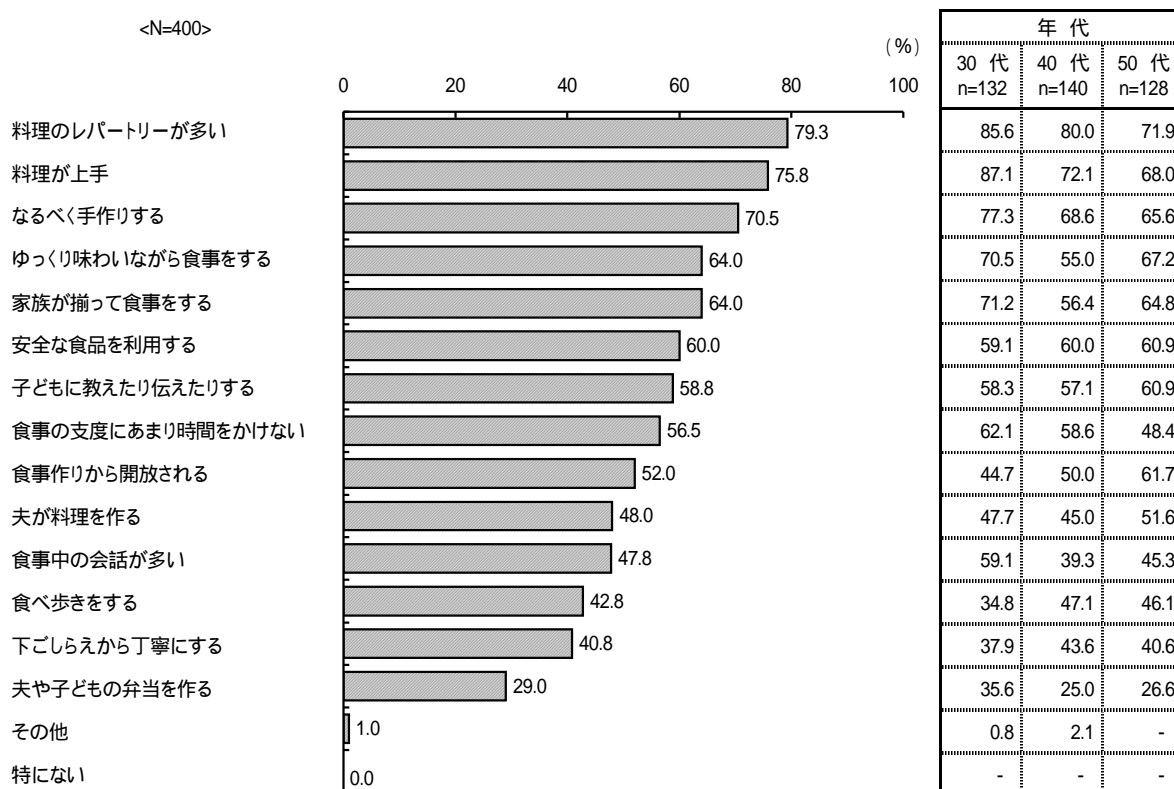
年代別にみると、年代が高くなるほど「有名店で食べる機会が少ないから」が高く、一方、年代が低いほど「まわりの人のほうがグルメに見えるので」「料理があまり上手でないから」が高くなっています。

7. 自分自身や家庭の食生活について望んでいること、実現していること

『望んでいること』は、「料理のレパートリーが多い」(79.3%)、「料理が上手」(75.8%)、「なるべく手作りする」(70.5%)がベスト3で、“料理の技術向上”への希望が特に強い

『実現していること』は、全般に『望んでいること』に比べ低率だが、「なるべく手作りする」(74.3%)、「夫や子どもの弁当を作る」(43.8%)、「食事の支度にあまり時間をかけない」(42.0%)がベスト3

図 25. 自分自身や家庭の食生活について“望んでいること”(複数回答)

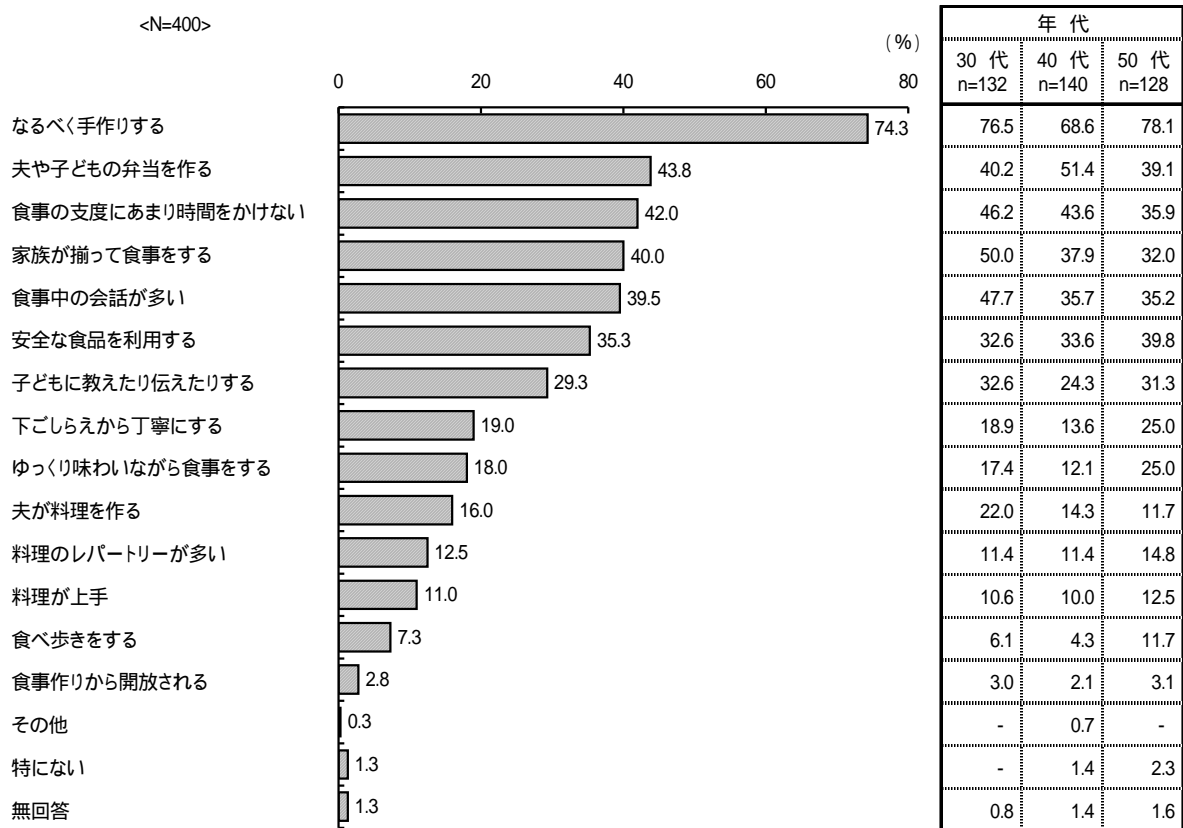


まず、自分自身や家庭の食生活について『望んでいること』を聞いてみました。

「料理のレパートリーが多い」(79.3%)、「料理が上手」(75.8%)と“料理の技術向上”に関することをはじめ、「なるべく手作りする」(70.5%)、「ゆっくり味わいながら食事をする」「家族が揃って食事をする」(ともに64.0%)、「安全な食品を利用する」(60.0%)、「子どもに教えたり伝えたりする」(58.8%)、「食事の支度にあまり時間をかけない」(56.5%)、「食事作りから開放される」(52.0%)までの9項目を半数以上の人があげており、要望は多岐にわたっています。

年代別にみると、年代が低いほど上位3項目の「料理のレパートリーが多い」「料理が上手」「なるべく手作りする」、および「食事の支度にあまり時間をかけない」が高くなっています。逆に、年代が高くなるほど「食事作りから開放される」が高率です。

図 26 . 自分自身や家庭の食生活について “ 実現していること ” (複数回答)



次に、実際に『実現していること』について聞いてみました。

「なるべく手作りする」が断然トップで、ほぼ4人に3人(74.3%)が『実現している』としています。以下、「夫や子どもの弁当を作る」(43.8%)、「食事の支度にあまり時間をかけない」(42.0%)、「家族が揃って食事をする」(40.0%)、「食事中的会話が多い」(39.5%)、「安全な食品を利用する」(35.3%)、「子どもに教えたり伝えたりする」(29.3%)などの順に続きますが、『望んでいること』に比べると、全般的に低率となっています。

『望んでいること』の率よりも『実現していること』の方が高いのは、「なるべく手作りする」(『望んでいる』70.5%、『実現している』74.3%)、「夫や子どもの弁当を作る」(同29.0%、43.8%)の2項目で、望んでいないのに現実には...、ということのようです。

なお、『望んでいること』が『実現している』割合をみると、「なるべく手作りする」(70.9%)、「夫や子どもの弁当を作る」(54.3%)は半数以上に達していますが、そのほかの項目は低く、特に「食事作りから開放される」(3.4%)、「料理のレパートリーが多い」(8.2%)、「料理が上手」(8.3%)は低率です。望んでいても実現できないことは多いようです。

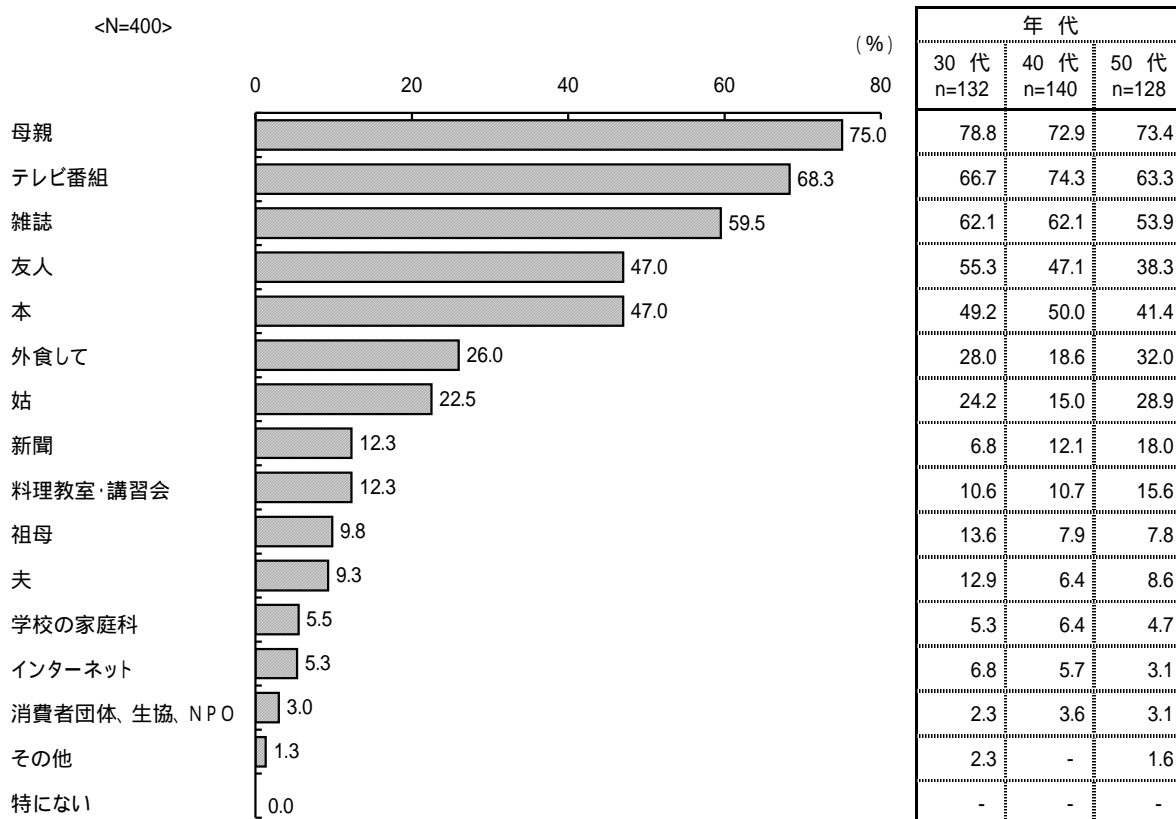
年代別にみると、年代が低いほど「食事の支度にあまり時間をかけない」「夫が料理を作る」など自分があまり調理しないで、「家族が揃って食事をする」「食事中的会話が多い」など“皆が揃って楽しく食事をする”ことが実現している傾向がみられます。一方、年代が高いほど「安全な食品を利用する」を多くあげています。

子どものいる主婦 400 人に聞く 食育に関する意識と実態

1. これまで料理や食についての知識を、主に誰から教わったり、何かからとり入れてきたか

やはり、「母親」(75.0%)が1番

図 27. これまで料理や食についての知識を、主に誰から教わったり、何かからとり入れてきたか（複数回答）



これまで、『料理や食に関する知識を、誰から教わり、何かから取り入れてきたか』を聞いたところ、「母親」(75.0%)が最も多くなっています。やはり、家庭の味は“母親から子へ”と伝承されていくことが見えてきます。次いで、「テレビ番組」(68.3%)、「雑誌」(59.5%)といったメディア関連が続き、以下、「友人」「本」(ともに47.0%)、「外食して」(26.0%)、「姑」(22.5%)、「新聞」「料理教室・講習会」(ともに12.3%)などが続きます。

年代別にみると、若い人ほど「友人」、年代が上の人ほど「新聞」を多くあげています。

食の安全に対する関心度が高い人ほど「雑誌」「本」「外食して」「料理教室・講習会」「消費者団体、生協、NPO」などが高率です。

また、グルメだと《思う》人は全般に高率で、特に「外食して」(46.6%)は《思わない》(17.6%)人との差が大きくなっています。

2. 季節や行事の時に、必ず食べたくなる地元の作物・郷土料理・行事食

「雑煮」(40件)、「ちらし寿司」(31件)、「おせち料理」(20件)がベスト3

大分類で見ると、「ご飯もの(栗ご飯、五目ご飯など)」(118件)、「正月料理(おせち、もち、雑煮など)」(88件)、「魚料理(秋刀魚、鮎)」(64件)などの順

表 3 . 季節や行事の時に、必ず食べたくなる地元の作物・郷土料理・行事食<ベスト 10> (自由回答：件)

順位		件数
1	雑煮	40
2	ちらし寿司	31
3	おせち料理	20
4	竹の子ご飯	11
4	赤飯	11
6	栗ご飯	10
7	きりたんぼ	8
8	おはぎ	7
9	ゴーヤ料理	6
10	松茸ご飯	5

『季節や行事の時に、必ず食べたくなる地元の作物・郷土料理・行事食』を、自由回答で答えてもらったところ、「雑煮」(40件)がトップで、以下、「ちらし寿司」(31件)、「おせち料理」(20件)、「竹の子ご飯」・「赤飯」(ともに11件)、「栗ご飯」(10件)、「きりたんぼ」(8件)、「おはぎ」(7件)、「ゴーヤ料理」(6件)、「松茸ご飯」(5件)までがベスト 10 となっています。地方色豊かな「きりたんぼ」(秋田)、「ゴーヤ料理」(沖縄)も入っているのは、故郷の料理がすでに都市部に広まっているのかもしれませんが。

表 4 . 季節や行事の時に、必ず食べたくなる地元の作物・郷土料理・行事食【大分類】(自由回答：件)

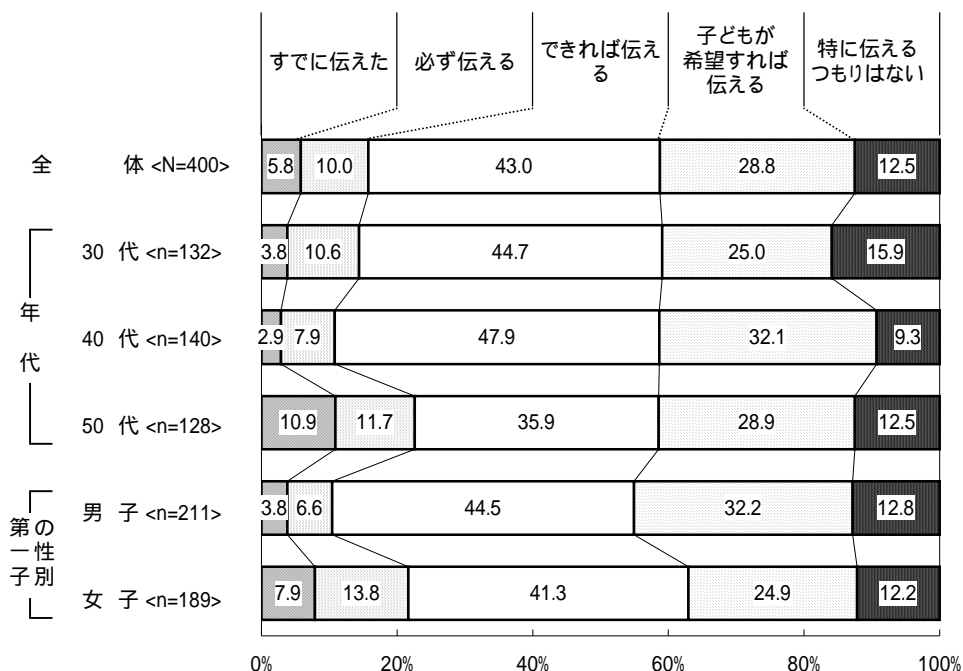
順位		件数
1	ご飯もの(栗ご飯、五目ご飯など)	118
2	正月料理(おせち、もち、雑煮など)	88
3	魚料理(秋刀魚、鮎など)	64
4	野菜料理、果物など	48
5	汁物(三平汁、のっぺ汁など)	31
6	鍋物(きりたんぼ鍋など)	23
7	煮物(筑前煮、がめ煮など)	18
8	麺類	12
9	肉料理	11
	その他	9

大分類でみると、季節物の食材を使った料理として人気のある「ご飯もの(栗ご飯、五目ご飯など)」(118件)が最も多くなっています。また、行事食の代名詞ともいえる「正月料理(おせち、もち、雑煮など)」(88件)旬が待たれる「魚料理(秋刀魚、鮎など)」(64件)が続いています。以下、「野菜料理、果物など」(48件)、「汁物(三平汁、のっぺ汁など)」(31件)、「鍋物(きりたんぼ鍋など)」(23件)、「煮物(筑前煮、がめ煮など)」(18件)、「麺類」(12件)、「肉料理」(11件)の順となっています。

3. 郷土料理・行事食を子どもの世代に伝えるか

“伝えた + 伝える”(87.5%)と回答した人が大半だが、詳細にみると、「できれば伝える」(43.0%)、「子どもが希望すれば伝える」(28.8%)とあまり強い意気込みではない

図 28. 郷土料理・行事食を子どもの世代に伝えるか



続いて、『郷土料理・行事食を子どもの世代に伝えるか』どうかを聞いてみました。

郷土料理・行事食を子どもの世代に「特に伝えるつもりはない」という人は約1割(12.5%)にとどまり、“伝えた + 伝える”(87.5%)という人が大半を占めています。ただし、細かくみると、「できれば伝える」(43.0%)、「子どもが希望すれば伝える」(28.8%)と、強い意気込みではない人が主で、「必ず伝える」(10.0%)や「すでに伝えた」(5.8%)という人はあまり多くありません。

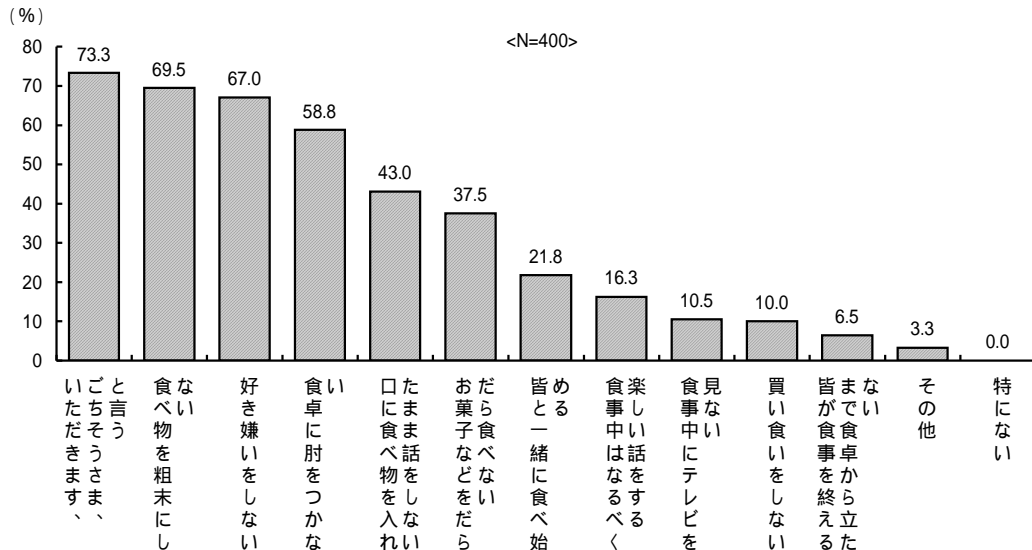
年代別にみると、それほど大きな違いはありませんが、50代は「すでに伝えた」(10.9%)が、30代(3.8%)、40代(2.9%)に比べやや多くなっています。

第一子の性別にみると、男子よりも女子の場合の方が、“伝えた + 必ず伝える”という意識が強いようです。

4. 子育てをする中で、食べ物や食事について、言い聞かせたり、守らせようとしたこと

「いただきます、ごちそうさま、と言う」(73.3%)、「食べ物を粗末にしない」(69.5%)、「好き嫌いをしない」(67.0%)、「食卓に肘をつかない」(58.8%)など、食事に関するマナーや、健康によい食生活を教えていこうとしている

図 29. 子育てをする中で、食べ物や食事について、言い聞かせたり、守らせようとしたこと(複数回答)



年代	30代 <n=132>	40代 <n=140>	50代 <n=128>
いただきます、ごちそうさま、と言う	79.5	65.2	64.4
食べ物を粗末にしない	59.1	46.2	46.2
好き嫌いをしない	46.2	19.7	14.4
食卓に肘をつかない	14.4	12.1	9.1
口に食べ物を入れたまま話をしない	9.1	9.8	4.5
お菓子などをだらだら食べない	9.8	5.0	1.4
皆と一緒に食べ始める	4.5	-	-
食事中はなるべく楽しい話をする	21.8	18.6	8.6
食事中にテレビを見ない	22.1	15.6	10.9
皆が食事を終えるまで食卓を立たない	10.5	10.2	4.7
買いたいものをしない	10.0	4.7	3.9
その他	6.5	3.3	0.0
特になし	3.3	0.0	0.0

『子育てをする中で、食べ物や食事について、言い聞かせたり、守らせようとしたこと』を複数回答で聞いたところ、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(73.3%)、「食べ物を粗末にしない」(69.5%)、「好き嫌いをしない」(67.0%)、「食卓に肘をつかない」(58.8%)の4項目が5割以上の高い割合を示しています。以下、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(43.0%)、「お菓子などをだらだら食べない」(37.5%)などの順で、基本的な食事のマナーのほか、子どもの健康を考えた教育を重視しているようです。ただし「皆と一緒に食べ始める」(21.8%)、「食事中はなるべく楽しい話をする」(16.3%)、「食事中にテレビを見ない」(10.5%)、「皆が食事を終えるまで食卓を立たない」(6.5%)ことを守らせようとしてきた人は少なく、食卓の家族コミュニケーションへの意識は、やや薄いようです。

年代別にみると、年代が高いほど「食べ物を粗末にしない」が高くなる傾向がみられます。一方、若い人ほど「お菓子などをだらだら食べない」が高率ですが、これは現在子どもが低年齢であるためと思われ、子どもの学齢別の《小学校低学年以下のみ》の場合、同項目(52.9%)が一層高くなっています。

第一子の性別にみると、女子の場合の方が、「食卓に肘をつかない」(男子 54.5%、女子 63.5%)をはじめ、男子の場合よりも全般的に少しずつ率が高くなっています。食事についてのしつけは女子に対しての方が厳しいようです。

5. 子育てのなかで、食べ物や食事について、参加・実行させるようにしてきたこと

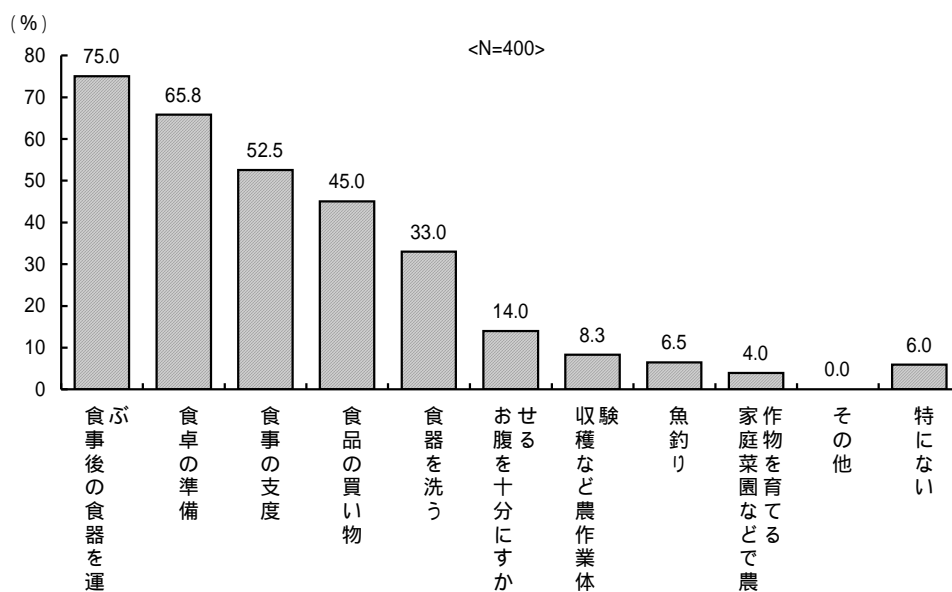
「食事後の食器を運ぶ」(75.0%)、「食卓の準備」(65.8%)、「食事の支度」(52.5%)など、簡単な“食事の用意と食後の片づけ”に参加・実行させている家庭が多い

「食事の支度」の具体的な内容は、「お米をとぐ」(74.8%)、「野菜などの皮をむく、切る」(71.4%)、「野菜などを洗う」(56.7%)、「料理を作る」(56.2%)など

『第一子が一番最初に作った料理名』の第1位は、「卵料理」(42件)

「食事の支度」に第一子を参加させるようになった年齢は、「4～6歳」(41.9%)、「3歳以下」(10.0%)の“小学校以前”が過半数

図 30. 子育てのなかで、食べ物や食事について、参加・実行させるようにしてきたこと（複数回答）



年 代	30代 <n=132>	40代 <n=140>	50代 <n=128>
食事後の食器を運ぶ	72.7	70.7	82.0
食卓の準備	63.6	65.7	68.0
食事の支度	50.0	49.3	58.6
食品の買い物	41.7	45.7	47.7
食器を洗う	22.0	30.0	47.7
お腹を十分にすか	23.5	10.7	7.8
収穫など農作業体験	11.4	7.9	5.5
魚釣り	8.3	5.0	6.3
家庭菜園などで農作物を育てる	4.5	4.3	3.1
その他	-	-	-
特にな	6.8	7.9	3.1

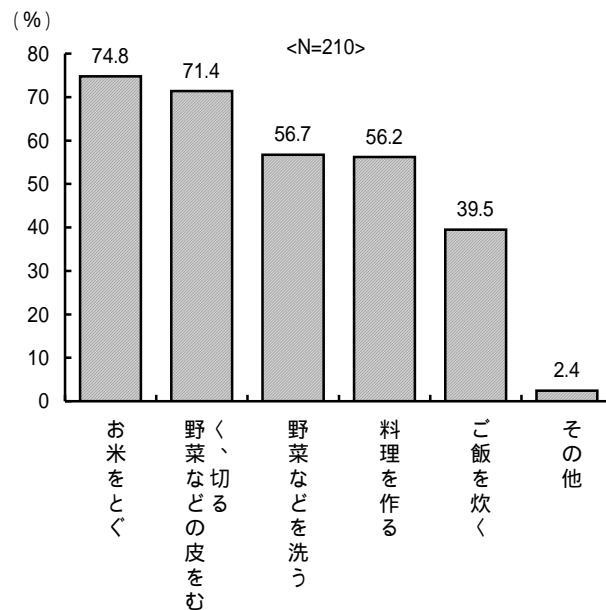
続いて、『子育てのなかで、食べ物や食事について、参加・実行させるようにしてきたこと』を聞いてみました。

最も多い回答は、「食事後の食器を運ぶ」(75.0%)で、以下「食卓の準備」(65.8%)、「食事の支度」(52.5%)、「食品の買い物」(45.0%)、「食器を洗う」(33.0%)が続いており、簡単な“食事の用意と食後の片づけ”に参加・実行させている家庭が多いようです。そのほかの回答は低率ですが、「お腹を十分にすかせる」(14.0%)、「収穫など農作業体験」(8.3%)、「魚釣り」(6.5%)、「家庭菜園などで農作物を育てる」(4.0%)などが並んでいます。

年代別にみると、年代が高いほど子どもも成長しているため“支度・片付け”の項目が高く、50代では「食器を洗う」(47.7%)が30代(22.0%)の2倍以上の率に達しています。

ここでは子どもの学齢との関わりが強く、《小学校低学年以下のみ》の場合、全般に低率ですが、「お腹を十分にすかせる」(25.3%)、「収穫など農作業体験」(16.1%)は、高学齢よりも高率です。

図 31 . 具体的に、食事の支度でさせたこと（複数回答）



年 代	30代 <n=66>	62.1	75.8	59.1	50.0	21.2	6.1
	40代 <n=69>	81.2	65.2	44.9	52.2	49.3	1.4
	50代 <n=75>	80.0	73.3	65.3	65.3	46.7	-
第一子の性別	男子 <n=84>	75.0	64.3	42.9	47.6	36.9	1.2
	女子 <n=126>	74.6	76.2	65.9	61.9	41.3	3.2

「食事の支度」と回答した人に、『第一子に、食事の支度で具体的にさせたこと』を聞いてみました。

「お米をとぐ」(74.8%)、「野菜などの皮をむく、切る」(71.4%)が7割強と高くなっています。次いで、「野菜などを洗う」(56.7%)、「料理を作る」(56.2%)が5割台、「ご飯を炊く」(39.5%)が4割弱で続いています。

年代別にみると、30代は「お米をとぐ」(62.1%)、「ご飯を炊く」(21.2%)が、40代 50代に比べてまだ低率です。これは子どもの年齢との関わりと考えられます。

子どもの学齢別にみると、《小学校低学年以下のみ》で「ご飯を炊く」(8.8%)のはごく少数ですが、《小学校高学年、中学生がいる》と同項目は39.7%に増え、「お米をとぐ」(78.2%)、「野菜などの皮をむく、切る」(75.6%)も高くなります。

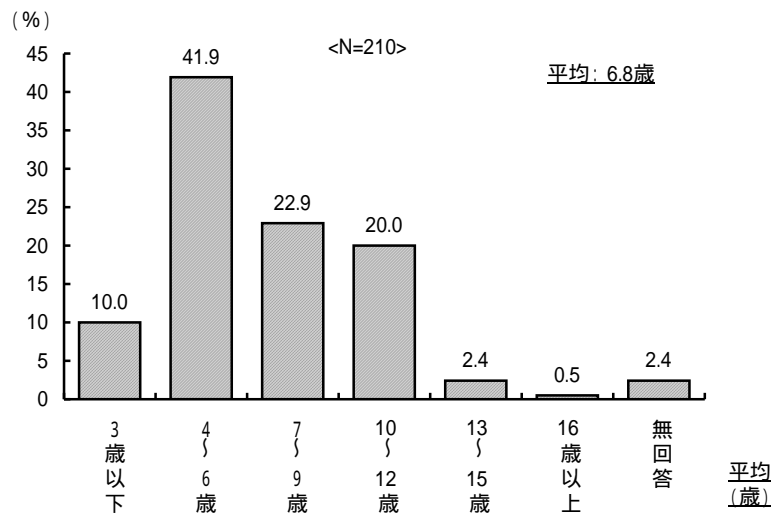
第一子の性別でみると、「お米をとぐ」以外の項目は、女子の方が男子より高率になっています。“食事の支度を手伝うのは女の子”という意識が根強く残っているようです。

表 5 . 第一子が一番最初に作った料理名 (自由回答 : 件)

順位		件数
1	卵料理 (目玉焼き、卵焼き、炒り卵)	42
2	カレーライス	35
3	サラダ	8
3	チャーハン、チキンライス、おにぎり	8
5	ハンバーグ	6
6	ラーメン、焼きそば	5
7	餃子	4
8	ホットケーキ	3
	その他	7

また、「料理を作る」と回答した人に、『第一子が一番最初に作った料理名』を自由回答で聞いてみたところ、最も多いのは、「卵料理 (目玉焼き、卵焼き、炒り卵)」(42 件)で、続く「カレーライス」(35 件)も多くの人があげており、以下、「サラダ」「チャーハン、チキンライス、おにぎり」(ともに 8 件)、「ハンバーグ」(6 件)、「ラーメン、焼きそば」(5 件)、「餃子」(4 件)、「ホットケーキ」(3 件)などが続いています。

図 32 . 第一子を、食事の支度に参加させるようになった年齢



年	30代 <n=66>	18.2	42.4	24.2	12.1	-	-	3.0	5.8
代	40代 <n=69>	5.8	37.7	26.1	29.0	1.4	-	-	7.4
	50代 <n=75>	6.7	45.3	18.7	18.7	5.3	1.3	4.0	7.2
第一子の性別	男子 <n=84>	11.9	39.3	21.4	22.6	1.2	-	3.6	6.8
	女子 <n=126>	8.7	43.7	23.8	18.3	3.2	0.8	1.6	6.8

続いて、『第一子を食事の支度に参加させるようになった年齢』を聞いてみたところ、「4～6歳」(41.9%)が最も多く、「3歳以下」(10.0%)を合わせた“小学校入学前まで”に半数以上が食事の支度に参加させています。次いで、「7～9歳」(22.9%)「10～12歳」(20.0%)などの順で、平均は「6.8歳」です。

年代別にみると、30代では、「3歳以下」(18.2%)に『食事の支度に参加させるようになった』率が40代(5.8%)50代(6.7%)に比べ約12ポイントも高く、平均年齢も30代(5.8歳)が最も低くなっています。しかし、40代50代は7歳以降に参加させている例も少なくなく、30代はまだ子どもを参加させていない人もいますのでしょう。

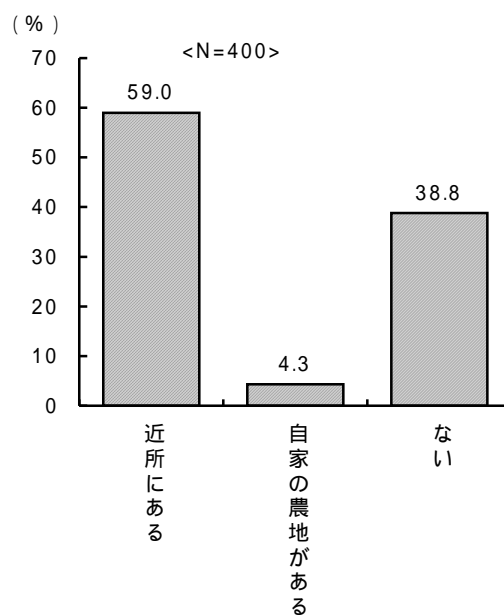
第一子の性別にみても、それほど大きな違いはなく、平均年齢も男子女子ともに「6.8歳」となっています。

1. 近所に、農地があるか

“近所に、農地がある”という人は、6割強(61.3%)

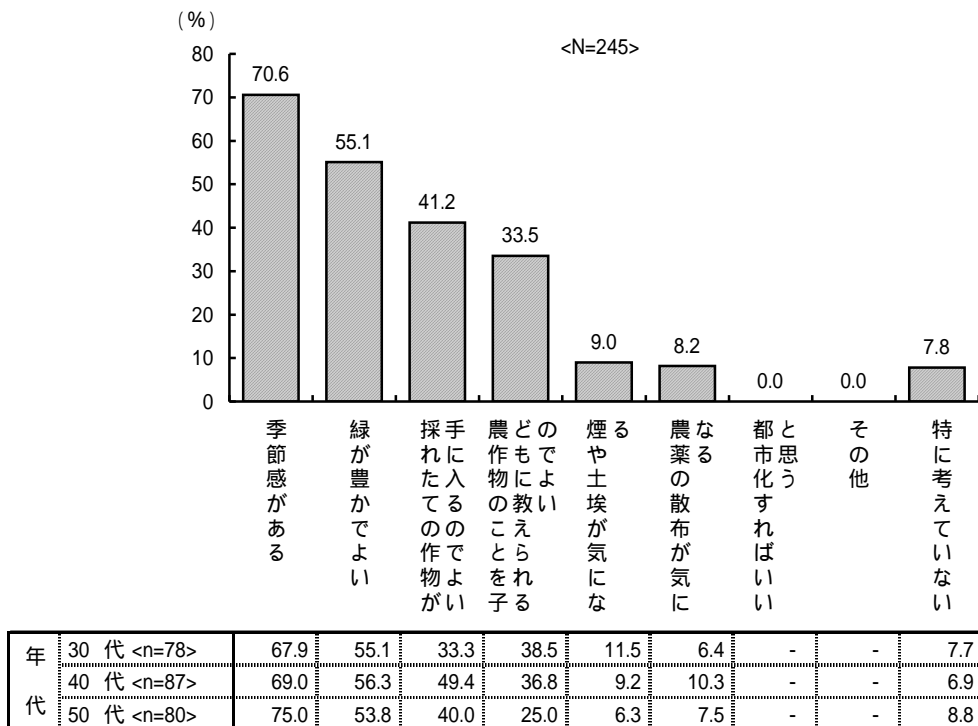
農地が近所にあることに対しては、「季節感がある」(70.6%)、「緑が豊かでよい」(55.1%)、「採れたての作物が手に入るのでよい」(41.2%)、「農作物のことを子どもに教えられるのでよい」(33.5%)など、プラス評価をする人がほとんど

図 33. 近所に、農地があるか(複数回答)



『近所に農地があるか』を聞いたところ、「近所にある」(59.0%)が半数を超えています。また、「自家の農地がある」(4.3%)もわずかながらみられ、これらを合わせた“農地がある”という割合は6割強(61.3%)という高い割合を示しています。なお、「ない」と回答した人は「38.8%」です。

図 34 . 農地が近所にあることについて、どう考えているか（複数回答）



次に、“近所に農地がある”と回答した人に、『農地が近所にあることについて、どう考えているか』と聞いたところ、「季節感がある」(70.6%)が最も高く、次いで、「緑が豊かでよい」(55.1%)、「採れたての作物が手に入るのよい」(41.2%)、「農作物のことを子どもに教えられるのよい」(33.5%)が続き、“プラス評価”が上位を占めています。「煙や土埃が気になる」(9.0%)、「農薬の散布が気になる」(8.2%)といったマイナス評価はいずれも低率で、「特に考えていない」(7.8%)という人も少数です。また、「都市化すればいいと思う」(0.0%)は皆無となっています。

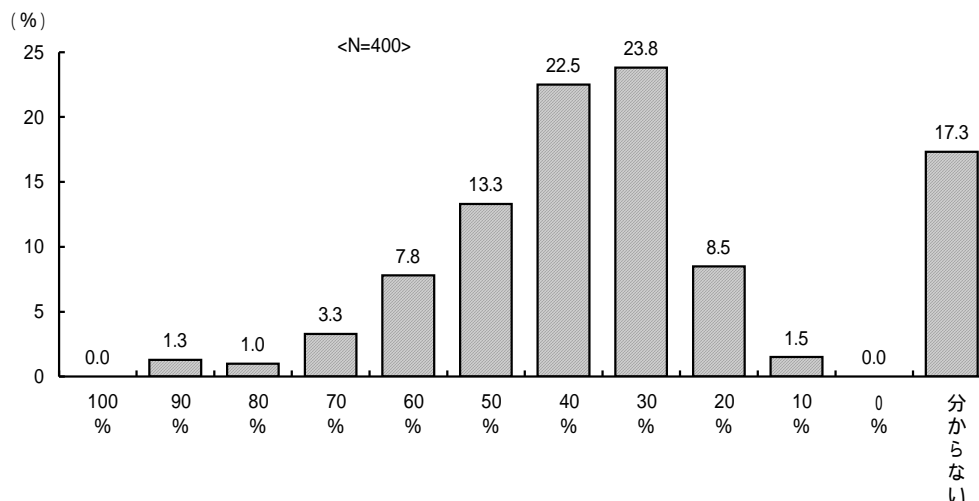
年代別にみると、年代が高くなるほど「季節感がある」が高くなり、逆に年代が低いほど、「農作物のことを子どもに教えられるのよい」が高まる傾向があります。

子どもの学齢別にみると、学齢が低いほど「緑が豊かでよい」と「農作物のことを子どもに教えられるのよい」が高く、小学校低学年以下のみは特に「農作物のことを子どもに教えられるのよい」(50.0%)が高く、高校生以上のみ(19.3%)に比べると30ポイント強の差があります。

2. 現在、日本の食糧自給率はどれくらいだと思うか

「30%」(23.8%)「40%」(22.5%)と、半数弱がほぼ“正解”

図 35. 現在、日本の食糧自給率はどれくらいだと思うか



年	30代 <n=132>	-	0.8	0.8	4.5	6.8	14.4	20.5	23.5	7.6	0.8	-	20.5
代	40代 <n=140>	-	1.4	1.4	4.3	11.4	15.0	22.1	18.6	8.6	1.4	-	15.7
代	50代 <n=128>	-	1.6	0.8	0.8	4.7	10.2	25.0	29.7	9.4	2.3	-	15.6

『現在の日本の食糧自給率はどれくらいだと思うか』と聞いてみたところ、「30%」(23.8%)と「40%」(22.5%)がともに2割強で多く、次いで「50%」(13.3%)などの順となっています。また、「分からない」(17.3%)との回答も少なからずみられます。自給率の計算方法はいろいろありますが、供給熱量自給率は「40%」前後なので、半数近くはほぼ正解といえるでしょう。50%以上が26.7%、20%以下が10.0%です。先進国の中で食料自給率の高い「オーストラリア(280%)」、「カナダ(161%)」、「フランス(132%)」(出典『平成12年度「食料需給表」(農林水産省)』)には遠くおよばず、「40%」という自給率は先進国中でも極めて低い数値です。

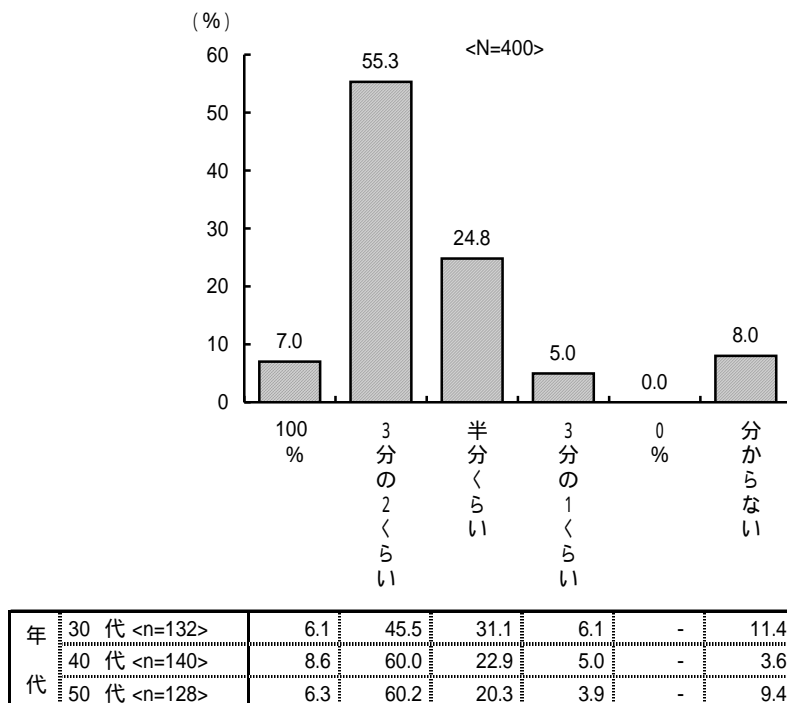
年代別にみると、50代は「40%」以下を回答した人が66.4%を占め、自給率の低さを意識している人が多いようです。30代は「分からない」(20.5%)がやや多めです。

食の安全への関心度別にみると、とても関心がある人は「30%」(35.4%)と「40%」(29.2%)に回答が集中しています。一方、関心度が低い人ほど「分からない」が多くなっています。

3. 日本は、どの程度食糧を自給すべきだと思うか

「3分の2くらい」(55.3%)が半数を超え、「半分くらい」(24.8%)が続く

図 36. 日本は、どの程度食糧を自給すべきだと思うか



では、『日本は、どの程度食糧を自給すべき』だと思っているのでしょうか。

半数強が「3分の2くらい」(55.3%)と回答し、「半分くらい」(24.8%)が続いています。「100%」も7.0%みられ、現状より低い「3分の1くらい」という人は5.0%に留まっています。ほとんどの人は食糧自給率を上げ、半分以上は自国で賄うべきだと考えていることとなりますが、多少は輸入食品を利用したり、多彩な食生活を楽しみたいという気持ちもあるようです。

年代別にみると、年代が上になるほど「3分の2くらい」が多く、逆に、年代が低いほど「半分くらい」や「3分の1くらい」が多くなっています。全般的に、年代が低いほど“それほど自給しなくてもよい”との回答が多くなる傾向がみられます。

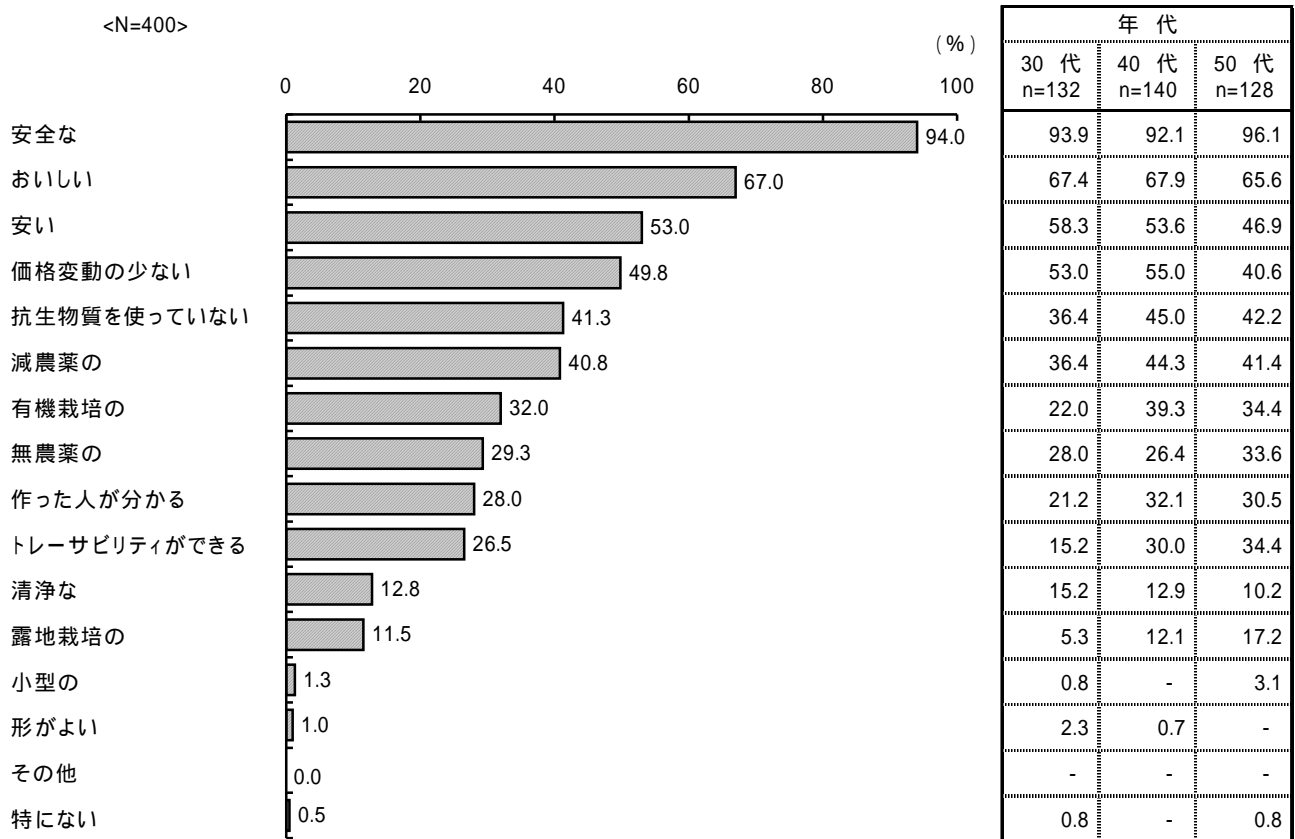
食の安全への関心度別にみると、関心度が高い人ほど「3分の2くらい」が多く、とても関心がある(69.2%)人では7割を占めています。まあ関心がある人は「半分くらい」(28.6%)が他グループに比べて多く、関心がない人では「分からない」(17.8%)が少なくありません。食の安全に対する関心が高い人ほど『日本はもっと食糧を自給すべき』と考えているようです。

注：本調査は、アメリカ産牛肉や一部の外国産鶏肉の輸入禁止措置が発表される前に行ったものです。

4. これからの農畜水産物に対する要望

「安全な」(94.0%)農畜水産物への要望が突出しており、次いで「おいしい」(67.0%)、「安い」(53.0%)の順

図 37. これからの農畜水産物についての要望（複数回答）



『これからの農畜水産物に対してどんなことを要望するか』を複数回答で聞いてみたところ、「安全な」(94.0%)が断然高く、「おいしい」(67.0%)が7割弱、「安い」(53.0%)が5割強で続き、ベスト3になっています。そのほか「抗生物質を使っていない」(41.3%)、「減農薬の」(40.8%)、「有機栽培の」(32.0%)、「無農薬の」(29.3%)など“安全性”に関わる項目が多くあげられています。近年、話題になっているBSEや遺伝子組み換え食品などの影響からか、『安全性』への要望は極めて高い結果となりました。ただ、「安全な」と「安い」「価格変動の少ない」(49.8%)を両立させることは難しいという認識も必要でしょう。そのほか、「作った人が分かる」(28.0%)、「トレーサビリティができる」(26.5%)などの要望がみられます。

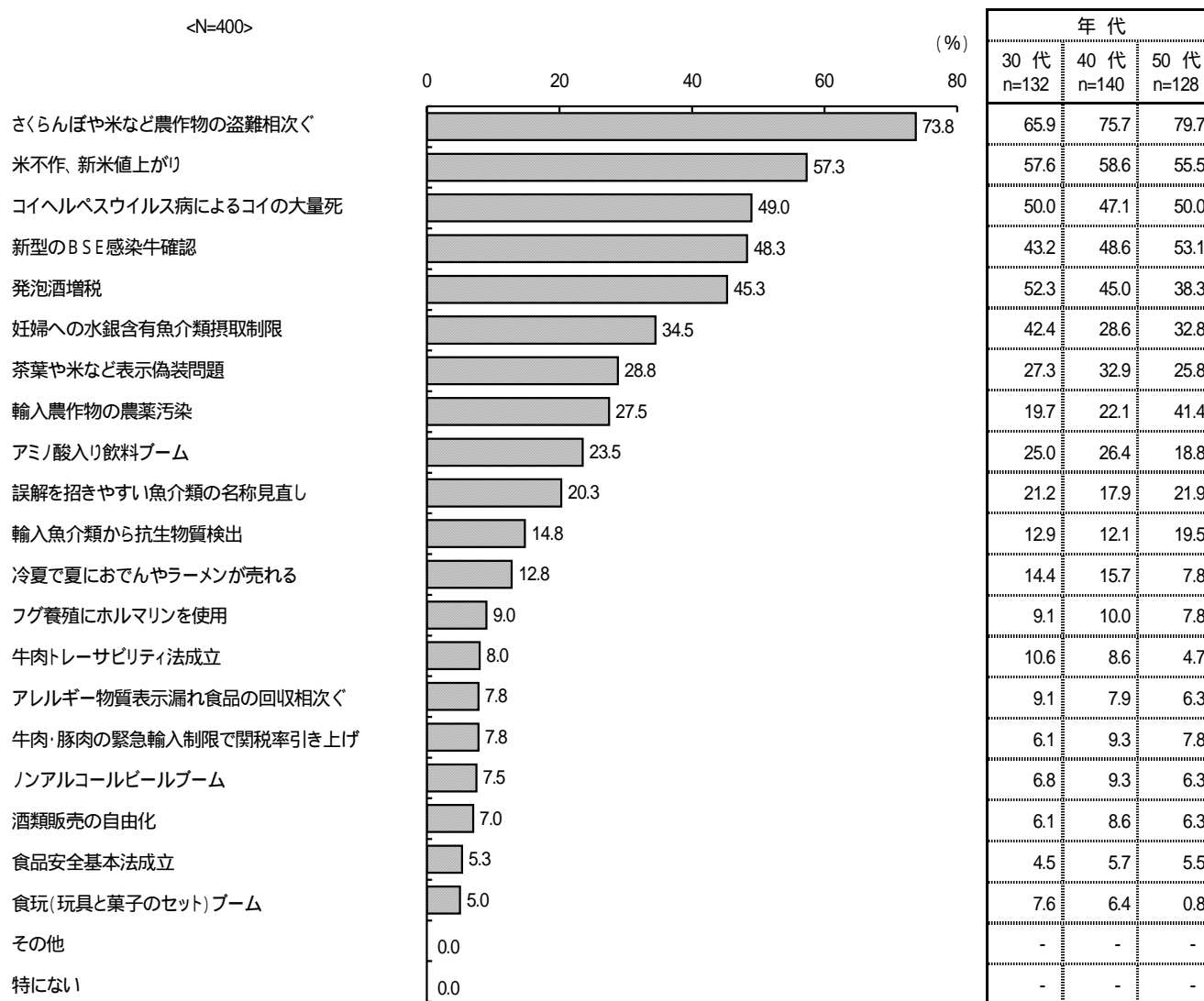
年代別にみると、年代が低くなるほど「安い」が高くなり、一方、年代が高いほど「トレーサビリティができる」「露地栽培の」が高くなっています。また、全ての年代で「安全な」が9割を超えていますが、特に50代では「96.1%」と高く、ここでも、年代が低いほど“安全より価格の安さ”を重視し、年代が高いほど“価格の安さより安全”を重視する傾向が出ています。

食の安全への関心度別にみると、関心度が高い人ほどほとんどの項目が高率で、逆に関心度の低い人で高いのは「おいしい」「安い」などです。

5. ここ1年間の食に関するニュースで、印象に残っているもの

「さくらんぼや米など農作物の盗難相次ぐ」(73.8%)、「米不作、新米値上がり」(57.3%)、「コイヘルペスウイルス病によるコイの大量死」(49.0%)がトップ3。続いて「新型のBSE感染牛確認」(48.3%)、「発泡酒増税」(45.3%)

図 38. ここ1年間の食に関するニュースで、印象に残っているもの（回答は5つまで）



『ここ1年間の食に関するニュースで、印象に残っているもの』について上位5つまで聞いてみたところ、「さくらんぼや米など農作物の盗難相次ぐ」(73.8%)、「米不作、新米値上がり」(57.3%)が5割を超える高い割合を示し、農作物に関するニュースが特に印象に残ったようです。以下、「コイヘルペスウイルス病によるコイの大量死」(49.0%)、「新型のBSE感染牛確認」(48.3%)などの“食用家畜や魚の病気に関する問題”や「発泡酒増税」(45.3%)など“生活費に直接影響する問題”が上位に続いています。

年代別にみると、年代が高くなるほど「さくらんぼや米など農作物の盗難相次ぐ」「新型のBSE感染牛確認」「輸入農作物の農薬汚染」、逆に若い人ほど「発泡酒増税」が高くなっています。

注：本調査は、アメリカ産牛肉や一部の外国産鶏肉の輸入禁止措置が発表される前に行ったものです。

農林中央金庫 広報部

〒100-8420 東京都千代田区有楽町 1 - 1 3 - 2
DN タワー21 (第一・農中ビル)
TEL . 03-3279-0111 / FAX . 03-3213-5276